

南砺幸せなまちづくり創生総合戦略

南砺市総合戦略推進委員会による 事業実施成果検証・評価・意見

(平成29年度事後評価)

南砺市まち・ひと・しごと創生総合戦略本部

南砺幸せなまちづくり創生総合戦略 体系表

数値目標	KPI	戦略事業
基本目標Ⅰ 心豊かな「結」と「土徳」のまち創造		
1-1 年間婚姻数	1. 婚活イベント年間参加者数	1 あなたと私を結ぶ赤い糸プロジェクト(AIP48) 2 婚活応援団なんとおせっ会プロジェクト
	1-2 年間出生数	2-1. 産み育てやすい子育て環境であると答えた市民の割合
2-2. 就労しながら無理なく子育てできると答えた市民の割合		6 子育て応援制度(名称変更) 11 なんとで育児and育自(子育て交流サロン) 12 イクメン応援事業
1-3 健康寿命の延伸	3. 地縁組織等による介護事業所数	15 介護予防・日常生活支援活動拠点施設改修及び備品等整備事業 16 介護人材育成タウンなんと
	4. がん検診受診率	19 「あなたのからだをナビゲート」事業(拡充)
基本目標Ⅱ 多様な仕事を育む地域課題解決のまち創造		
2-1 若者、女性の就業率	7. 若者、女性の就業者数	27 奨学金を活用した大学生等の地方定着促進事業(拡充) 28 起業家育成支援事業 29 女性起業家育成道場 30 母子家庭等就業・自立支援事業(指標変更) 33 空き店舗対策支援事業 34 小規模事業者後継者支援事業(商店後継者支援事業) 35 地域おこし協力隊の地域への人材還流の推進 36 就活・雇用促進事業 96 (新規)空き家活用型しごとの場創出支援事業
		9. 新規雇用者数
2-2 新規起業(家)数	10. クリエイター移住者数	42 クリエイター育成マッチング事業(拡大) 44 情報活用スペシャリスト投入事業「IT版地域おこし協力隊(フェローシップ)」
	2-3 南砺市ブランド商品年間販売額	11. 南砺ブランド商品登録品目数
12-1. 伝統的工芸職人数		48 伝統的工芸品後継者育成支援事業 50 桜ヶ池合掌造り家屋「かず良」で養蚕・絹糸再生事業
12-2. 南砺ブランド商品(農産物)年間販売額		59 農産物直売所5億円産業化 61 6次産業化支援融資事業(変更) 64 新規就農支援事業の実施

※色は最終評価を表している

青…A「かなりの効果があった(8割以上)」及び

B「まずまずの効果があった(7割以上)」

黄…C「少しは効果があった(改善・進展)」

赤…D「まだ効果が出ていない(制度等設計中、未着手)又は判断できない」及び

E「効果が見込めない(悪化・停滞)」

基本目標Ⅲ 南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイルのまち創造

3-1 自治会町内会行事に参加している市民の割合	13. コミュニティビジネス等に 取り組む自治会等の数	51 総合型自治振興会強化プラン(拡充) 52 南砺市版 空き家再生等推進事業 79 なんと市民開催 まちづくり塾支援事業
3-2-1 地域資源の利活用 (熱量)	14. 木質ペレット利用量	55 再生可能エネルギー推進事業 56 薪ステーション「木材利用でエコな生活を」 57 エコビレッジ住宅ゾーン基本計画策定及び分譲事業
3-2-2 地域資源の利活用 (地場産食材)	15. 小中学校給食における 地元産品使用率	58 地場産農作物消費向上事業 60 農・福連携食材活用支援事業
	16. 間伐面積	66 五箇山茅場の造成補助事業 67 「森の学校」の創設
3-3 縮減公共施設の 有効活用面積	18. 譲渡募集に係る応募数	70 公共施設再編後の施設を活用した企業誘致

基本目標Ⅳ 文化・芸術・景観・ひとが紡ぐ交流のまち創造

4-1-1 年間転入者数	19. 転入奨励金の年間交付 件数	72 移住定住者の保育料無料制度 73 定住促進雇用対策事業 74 五箇山地域に住ままい家プロジェクト 75 ふるさと回帰転入助成事業 77 移住コンシェルジュ事業(拡充) 78 定住支援事業 23 山村留学定住事業(拡充)
4-1-2 年間転出者数	20-1. 住み続けたいと思う市民 の割合	80 南砺版求人バンクで地域活性化(地域の困りごと解決) 81 なんとポイント事業 17 三世代同居奨励金及び推進住宅改修等助成事業(名称変更) 69 とやま呉西圏域連携事業の推進
	20-2. 南砺市に「誇り」や「愛着」 を感じている市民の割合	20 ふるさと教育推進事業 21 学校間をつなぐ遠隔協働学習 49 マイスター認定事業
	20-3. 公共交通を使いやすい と感じている市民の割合	24 なんバスで暮らそう事業 25 南砺金沢線バス運行事業 26 JR城端線駅舎Wi-Fi整備事業
4-2 貢献市民の人数	21-1. 観光客入り込み数	82 なんとエコツーリズム事業 83 滞在型彫刻体験等支援事業 87 コンベンション支援事業 53 地元の空き家を活用した短期滞在型施設経営支援「田舎に泊まろう」 76 観光客誘致推進に向けた広域連携事業 92 TOGA国際芸術村を核としたクリエイティブビレッジ構想
	21-2. 観光客の満足度	84 観光客受入環境整備事業 89 おもてなしFree Wi-Fi事業 97 (新規)なんチャリ事業 90 貢献市民登録制度
	22. ふるさと寄附をした人数	91 ふるさと寄附金の推進及びふるさと産品の拡大 85 なんと！幸せのおすそわけキャンペーン
4-3 提携大学数	24. 官学・官民連携の手法を 活用した事業実施数	93 官学、官民連携事業 94 金沢大学セミナーハウス整備事業

主管課	南砺で暮らしません課	関係課	
-----	------------	-----	--

ア 体系区分

基本目標	基本目標Ⅰ 心豊かな「結」と「土徳」のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 若者の結婚活動を支援 ② 妊娠, 出産, 子育てに切れ目のない総合的な支援 ③ 高齢者を地域全体で見守る体制づくりを支援 ④ 平均寿命と健康寿命を延伸 ⑤ 南砺を想う子どもを育む ⑥ 暮らしやすさを実感できる地域の創造

イ 指標と達成率

数値目標 1-1	年間婚姻数	関連する施策区分	①							
指標の説明、確認方法	一年間(4月~翌年3月)に南砺市で受付した婚姻届の件数									
現状値(H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)	
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度						H31年度
176	185	194	202	211	220	220	件	170	77%	84%
	9	9	8	9	9					

※達成率の計算方法(一部、例外有り)：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」 / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A: かなりの効果があった(8割以上) B: まずまずの効果があった(7割程度) C: 少しは効果があった(改善・進展) D: まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E: 効果が見込めない(悪化・停滞)
D	

婚姻届出数は、平成28年度より減少しておりD判定。

数値目標に繋がるKPIである「婚活イベントの参加者数」は順調に推移しているが、数値目標である「年間婚姻数」は目標値を達成していない。これは、結婚適齢期といえる20代~30代の人口の減少が男女とも大きいことと、25歳~39歳の世代で未婚率が高いことが主な要因と考えられる。

(改善点)

人口の減少については、20代の前の世代の人口も減っており、今後も減少は避けられない。社会減を食い止めることが重要である。

未婚率の低下は、婚活事業のメインターゲットであり、平成29年度から取り組んでいる婚活地域サポート事業など、市全体の意識改革を行いながら、継続して推進していくことで未婚率の低下につなげたい。

エ 外部評価

各委員の評価	◎: 効果があった ○: 少しは効果があった △: 現段階ではまだ判断できない ●: 効果が見込めない
	各委員の意見
○	出生率との連関、二人、三人出生への誘導が大事 未婚率の改善への施策を重点課題へ
△	20~30代の人口減少、未婚率の高さは全国的な傾向であり、婚姻数のみで判断はできないものとする。
△	減少要因もあり、今後も継続的に支援、事業展開が必要。
△	婚活イベントを積極的に開催する一方、婚姻数伸びていない。イベントの効果を検証する必要はないでしょうか。
△	婚姻数はイベントに参加するとかしないとか外的要因とは関係ないのではないのでしょうか。また、イベント参加数と婚姻数は相互の関連性に課題があると思います。
△	婚活イベントの参加増と婚姻数増の関連性が疑問。 未婚率低下のための市全体の意識改革として別案が必要では。
○	家族の形態が変わってきているので、子どもの増加や人の幸せのためにも、婚姻にこだわる必要は薄れている。
△	適齢期の人口減少も大きな要因だと思うが、結婚への憧れや必要性を感じなくなってきたのではないかと。結婚の形は変わるかもしれないが、子どもの頃から、命を次に繋げる大切さ等を、もっと伝えていく必要があると思う。
△	なかなか数値を予測するのは困難、希望的数値ではない
○	「婚姻数」の未達原因を「20~30代の人口の減少」と挙げていますが、それであれば、20~30代の未婚率・婚姻率を指標としても良いのでは。40代以上や10代での結婚が除外されますが、この世代の婚姻は「出産」の土台となる部分でもあります。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
D	婚活事業による成婚カップル数は着実に増えており、未婚者ニーズに合わせ継続して取り組みたい。また、平成29年度から実施している婚活地域サポートも含め、市全体の意識改革に取り組むことで婚姻率の上昇につなげたい。 現在の年間婚姻数は、南砺市に届出された婚姻届のみで集計しているが、今後の数値目標は、住民登録のある方(他市区町村届出分を含む)の婚姻数に変更する。

主管課	南砺で暮らしません課	関係課	
-----	------------	-----	--

ア 体系区分

施策区分	施策 I-① 若者の結婚活動を支援
この施策の中で取り組む事業	1 あなたと私を結ぶ赤い糸プロジェクト (AIP48) 2 婚活応援団なんとおせっ会プロジェクト

イ 指標と達成率

KPI 1	婚活イベント年間参加者数									
指標の説明、確認方法	市及び民間団体が実施する婚活イベント等への年間参加者数 (4月～翌年3月)									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率 (%)	年度時点の目標数値に対する達成率 (%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
441	700	800	900	1000	1100	1100	人	790	72%	88%
259	100	100	100	100	(前年に対する変化目標)					

※達成率の計算方法 (一部、例外有り) : 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」 / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A: かなりの効果があった (8割以上) B: まずまずの効果があった (7割程度) C: 少しは効果があった (改善・進展) D: まだ効果が出ていない (現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E: 効果が見込めない (悪化・停滞)
B	
<p>年度目標の9割近くを達成しておりB判定。 毎年参加者数は伸びてきている。 KPIに繋がる事業は順調に伸びてきているが、女性の参加者がなかなか集まらないという課題もみえており、マンネリ化を防ぐなど工夫することで、参加者の増加につなげたい。</p>	

エ 外部評価

各委員の評価	◎: 効果があった ○: 少しは効果があった △: 現段階ではまだ判断できない ●: 効果が見込めない
各委員の意見	
◎	広域イベントで良いと思うが、見合い～婚姻～出生～子育ての流れも良く理解してもらおうことが大切
○	一定の事業効果はあらわれているが、ややマンネリ化している点 (女性の参加を積極的に呼びかける必要有)
○	工夫を重ね参加者数の増加を図られたい。
△	婚活イベントを積極的に開催する一方、婚姻数伸びていない。イベントの効果を検証する必要はないでしょうか。
△	新規に参加した人数が大切ではないでしょうか。同じ顔ぶれだとチャンスが小さくなるので初参加の人を増やすことが婚姻数にも結びつくと思います。
○	市内外によく認知されているし実績も出ている。マンネリ化を防ぐ工夫に期待。
△	若い女性が結婚を望まなくなっているとすれば、理由を分析して改善する必要がある。
○	数値としては伸びているので○。けれど周囲の状況に変化を感じないので、参加しにくい実状があるのでは?人が多く集まるイベントに気軽に立ち寄れるワークショップを出店するなどし、情報を集めたり、ニーズを調べたりしてはどうか?
○	頑張っています 評価すべきです
△	上位目標は「結婚」ですので、参加者数が低迷するのであれば、「カップル成立数」や「婚活イベントを経ての婚姻数」など、指標を工夫しても良いのでは。それらを明示することはイベント参加対象者の興味を引くことにも繋がると思います。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
B	平成29年度に富山県が実施した「結婚等に関する県民意識調査」では、20代30代の未婚者の内73%が「将来結婚したい」と回答していることに加え、また結婚していない理由について「適当な相手にめぐり合わない」ことが1位となっており、今後も未婚者のニーズを調べるなどしながら、地域と連携し新規参加者の増加に努め出会う機会の創出を推進したい。

主管課	こども課	関係課	健康課
-----	------	-----	-----

ア 体系区分

基本目標	基本目標Ⅰ 心豊かな「結」と「土徳」のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 若者の結婚活動を支援 ② 妊娠、出産、子育てに切れ目のない総合的な支援 ③ 高齢者を地域全体で見守る体制づくりを支援 ④ 平均寿命と健康寿命を延伸 ⑤ 南砺を想う子どもを育む ⑥ 暮らしやすさを実感できる地域の創造

イ 指標と達成率

数値目標 1-2	年間出生数	関連する施策区分	②						
指標の説明、確認方法	年間出生数（4月～翌年3月） ※ 出生の母数となる女性の数が年齢ピラミッドより減ることが確定しているため、目標数値も減少している。								
現状値（H26年度）	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度					
305	332	330	328	326	324	人	297	92%	91%
	27	-2	-2	-2	-2				

※達成率の計算方法（一部、例外有り）：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」 / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
C	
年度目標に達していないが、平成28年度より増えているためC判定。 目標に繋がるKPIのうち、仕事と育児の両立にかかるKPIの評価が低い。 （改善点） 平成30年度より市民病院内に「こども医療センター」を設置し、小児外科医療や病児保育など新たなサービスによる子育て環境の整備に取り組むこととしている。さらに、保健センター等と連携して、イクメン応援事業の実施や父親が家庭において家事や育児等に協力する意識の向上を図ることにより、家庭内で安心して子育てができる環境を整えることで、さらに出産に踏み切る方が増加することが期待される。	

エ 外部評価

各委員の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
	各委員の意見
○	大事にすべき指標であり、これを増やす諸施策の連携と告知が重要
○	年間婚姻数、婚活イベント参加者数等とも関連し十分に健闘している。環境整備にも力点を置く施策の推進が必要。
○	結婚、出産、育児に対する各種支援をトータルで実施。不妊治療に対する助成のPRも。
△	産み育てやすいというアンケート結果に対し、就労が難しい、出生数が伸びない要因は何でしょうか（希望職種と企業のミスマッチ？勤務先が遠いからか）
○	出生数が増えていることは高い評価につながりますが、目標数に達しない理由が大切だと思います。
△	こども医療センターなどの新たなサービス・取り組みが始まるようなので期待。不妊に悩む女性に向けた取り組みも市であるといいのでは。
△	女性に社会進出を求めるなら、相応の子育て支援がないと、（子どもか仕事か）の選択になってしまう。
△	中・高校生での人生設計や性教育の際に、進路や避妊の指導だけでなく、出産・子育てについて男女で考える場が必要。当たり前に生まれて育つ訳ではないこと等を自分事として知っておくことが大切。学校への出前講座や講演会を助成する等。
●	急激に出生数が減少している 団塊ジュニアの出産が終わった 各中学校が1クラスになる日が近づいている
△	「母数となる女性の数が～」であれば、比率で出すと経年の比較がたやすくなるのでは。出生に関しては、①第一子（婚姻・不妊）と、②第二子以降（家族・特に夫の協力）とでは、底上げに繋がる要因が異なる。分けて整理できるとよい。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
C	企業等の子育て家庭への仕事と育児の両立支援やイクメン応援事業の実施などによる父親が家庭において家事や育児等に協力する意識の向上を図ることにより、働きながら家庭内でも分担して子育てができる環境づくりに努める。また、不妊治療や不育症治療に対する支援制度については、平成30年度に作成した子育て支援ガイドブックを活用するなどし、更なるPRIに努めたい。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	健康課	関係課	医療課、こども課
-----	-----	-----	----------

ア 体系区分

施策区分	施策 I-② 妊娠, 出産, 子育てに切れ目のない総合的な支援			
この施策の中で取り組む事業	3	産婦人科医の新規開業支援	9	保育料等軽減事業
	4	妊娠・出産包括支援事業（南砺市型「ネウボラ」推進事業）	10	認可外保育施設に通う子どもにかかる利用料（保育料等）支援事業
	5	南砺の三人っ子政策	13	マイナンバーカード連携「なんとすこやか親子支援事業」
	7	出生祝い金制度	95	小児医療推進事業
	8	こども医療費助成制度		

イ 指標と達成率

KPI 2-1	産み育てやすい子育て環境であると答えた市民の割合									
指標の説明、確認方法	(市民意識調査) 南砺市の市政への満足度を問う設問の中の産み育てやすい子育て環境づくりの項目について、「満足」「やや満足」「ふつう」と回答した人の合計を有効回答数で除した数									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
80.6	80	81	82	83	84	84	%	83.2	99%	101%
	-0.6	1	1	1	1					

※達成率の計算方法（一部、例外有り）：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」 / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A: かなりの効果があった (8割以上) B: まずまずの効果があった (7割程度) C: 少しは効果があった (改善・進展) D: まだ効果が出ていない (現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E: 効果が見込めない (悪化・停滞)
A		

年度目標を上回っておりA判定。
年代別にみると、最も満足度が高いのは70歳以上、次いで高いのが20代。逆に最も低いのは回答数は少ないものの18歳-19歳が最小で、次いで低いのは50代となっている。
繋がる事業については順調に活用が増えており、そのことが20代や30代の満足度に繋がっていると考えられる。南砺で子育てを推進するために、制度を活用している世代で満足度が高いことを10代の方たちに知ってもらう事も必要。

エ 外部評価

各委員の評価	◎: 効果があった ○: 少しは効果があった △: 現段階ではまだ判断できない ●: 効果が見込めない	各委員の意見
◎		この意識の強化は重要なKPI この点では、市内での産科医開業支援は不要
○		全体的に目標値を上回っている点は評価できる。年代別の満足度が高齢者層で上回っている点、該当年齢層の満足度アップにつながる工夫が必要。
◎		各種支援の利用が進んで、20歳30歳の満足度の高さにつながっているのは良。
◎		
◎		様々な支援事業があり、出産・子育て世代が満足しているのは事業の効果がみられることだと思います。更にこれらの支援制度を他の世代にも広く知ってもらう仕組みが大切だと思います。
◎		南砺市の子育て環境の良さは他市民からも言われる。 実際に20~30代市民が満足していると感じる。
△		10代で満足度が低いのに、20代で高いのは、18~22歳で不満を持つ人が転出してしまい、残った人は元々不満が少なかったと思われる。とすれば転出した人の不満理由を調べてほしい。
○		産婦人科の開業支援は現実的に見込めるのか？自宅出産や助産院への支援等、独自の取り組みも視野に入れてはどうか。若いうちからの不妊治療の提案や治療を伴わない検査への助成もあればいい。
●		対策がおざなりである 本気度がない
○		2~30代という出産適齢世代の満足度が高いことは非常に良い。「満足しているのならなぜ産まないのか?」「出産前後で満足度に差はあるのか?」など精査されると良いと思う。特に出産前後の満足からは、次のアクションが具体的に見えてくると思う。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
A	南砺市での子育てを推進するために、各種制度等を実施しており、実際に活用している世代で満足度が高い。市の子育て支援制度等が充実していることを10代の方たちにも積極的に周知していく。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	こども課	関係課	
-----	------	-----	--

ア 体系区分

施策区分	施策 I-② 妊娠, 出産, 子育てに切れ目のない総合的な支援
この施策の中で取り組む事業	6 子育て応援制度 11 なんとで育児and育自 (子育て交流サロン) 12 イクメン応援事業

イ 指標と達成率

KPI 2-2	就労しながら無理なく子育てできると答えた市民の割合									
指標の説明、確認方法	(市民意識調査: 18歳未満のお子さんがある家庭) 就労しながら無理なく子育てできると答えることができると回答した数/有効回答数									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率 (%)	年度時点の目標数値に対する達成率 (%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
58.5	60	62.5	65	67.5	70	70	%	62.1	89%	96%
	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5					

※達成率の計算方法 (一部、例外有り) : 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」 / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A: かなりの効果があった (8割以上) B: まずまずの効果があった (7割程度) C: 少しは効果があった (改善・進展) D: まだ効果が出ていない (現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E: 効果が見込めない (悪化・停滞)
C		

平成28年度より低下しておりC判定。
最も満足度が高いのは50代、次いで65歳~69歳、70歳以上となっている。最も低いのは60歳~64歳で、子育ての中心となる20歳~49歳の世代が軒並み60%前後となっている。
(改善点)
「子育て応援制度」は平成29年度15社の認定を行っており、今後、認定企業の取組みを紹介することで、意識が広がることにつなげたい。

エ 外部評価

各委員の評価	◎: 効果があった ○: 少しは効果があった △: 現段階ではまだ判断できない ●: 効果が見込めない
	各委員の意見
○	イクメン支援等が重点施策となるべき
△	KPI 2-1 同様、該当年齢における満足度を上げる施策が必要。ジェネレーションギャップ (意識) にも考慮すべき。
△	子育て応援制度の認定企業の拡大による意識の広がりを期待する。
△	産み育てやすいというアンケート結果に対し、就労が難しい、出生数が伸びない要因は何でしょうか (希望職種と企業のミスマッチ? 勤務先が遠いからか)
△	子育ての中心となる世代の満足度が低いところに着目して具体的な改善策を考えてほしいです。保育園の合理化で園の数が減っていることも問題ではないでしょうか。
△	最も満足度が低い60~64歳は、若い夫婦の両親? おじいちゃんおばあちゃんに負担がかかっているのでは? また、負担がかかる想像?
●	今の求人は優秀な人を求めるので、高齢者や社会的弱者にはハードルが高く、就職形態による収入格差が大きい。
△	職場の理解や職場環境づくり等、企業の努力も重要だが、あわせて「親育ち」の努力も必要。
●	女性が働きやすい対策が講じられていない
○	20~49歳の世代の6割が満足、というのは良いと思います。満足度の合いや、不満とを感じる者の理由など、掘り下げて、子育て応援制度などへ反映できていけるとさらに良いと思います。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
D	子育て応援制度等の推進を図ることや子育て交流サロン、イクメン応援事業を周知することにより、就労しながらも子育てしやすい環境づくりに努める。

主管課	健康課	関係課	
-----	-----	-----	--

ア 体系区分

基本目標	基本目標Ⅰ 心豊かな「結」と「土徳」のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 若者の結婚活動を支援 ② 妊娠、出産、子育てに切れ目のない総合的な支援 ③ 高齢者を地域全体で見守る体制づくりを支援 ④ 平均寿命と健康寿命を延伸 ⑤ 南砺を想う子どもを育む ⑥ 暮らしやすさを実感できる地域の創造

イ 指標と達成率

数値目標 1-3	健康寿命の延伸	関連する施策区分	③④							
指標の説明、確認方法	健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間であり、年齢階級別の人口、5年間の死亡数、65歳以上の要介護認定者数等により算出する。 ※ 検証は、毎年公表される簡易生命表、住基台帳人口等により毎年算定することとしたい。									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)	
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度						H31年度
男性 77.97歳 (H22)	78.53	78.64	78.75	78.86	78.97	男女とも1歳伸ばす	歳	79.49 (H28)	-	-
	-	0.11	0.11	0.11	0.11					
女性 82.97歳 (H22)	83.53	83.64	83.75	83.86	83.97	男女とも1歳伸ばす	歳	83.47 (H28)	-	-
	-	0.11	0.11	0.11	0.11					

※達成率の計算方法(一部、例外有り)：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率
 =(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
B	
H28実績で、男性は平成31年度目標値を達成し、女性についても上昇しておりB判定。 特定健診受診率・特定保健指導実施率は県下1位の高さであり、生活習慣病の発症・重症化予防の取組や健康意識の高揚により、女性についても目標値の達成に向けた取組を進める。	

エ 外部評価

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
○	健康自治体をより積極的に標榜すべき
○	一定の目標値は達成している。健康寿命のとらえ方を一般にもっと周知し活用をはかる。
○	着実に事業を進めていただきたい。
◎	
◎	健診や保健指導の効果が、高齢者の意識も高くなっているのだと思います。他人に迷惑をかけたくないという意識も影響しているのではないのでしょうか。
△	市の取り組みにより延伸したのかよくわからない。
○	健康寿命が伸びても、労働条件が悪くなるとは長寿の価値がなくなってしまう。
△	
△	
◎	健康寿命の目標達成、素晴らしいと思います。何が目標達成の理由となったか、他都市・他地域との差を精査し、どんどんPRしていくべきところだと思います。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
A	今後も生活習慣病の発症・重症化予防、とやま呉西圏域健康ポータルサイトを活用した健康意識の高揚に取り組む、更なる健康寿命の延伸を目指す。またあわせて、健康寿命が延びている事を市民へ周知することにも取り組む。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	地域包括ケア課	関係課	南砺で暮らしません課
-----	---------	-----	------------

ア 体系区分

施策区分	施策 I-③ 高齢者を地域全体で見守る体制づくりを支援
この施策の中で取り組む事業	15 介護予防・日常生活支援活動拠点施設改修及び備品等整備事業 16 介護人材育成タウンなんど

イ 指標と達成率

KPI 3		地縁組織による介護事業所数								
指標の説明、確認方法		地域支援事業の介護予防・日常生活支援総合事業（新しい総合事業）のうち、多様なサービスのAとB及び一般介護予防事業の地域介護予防活動支援事業の週1回以上のサロンを実施する地縁組織等の事業所数の合計								
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
0	0	3	14	22	31	31	事業所	17	55%	121%
-	(前年に対する変化目標)									

※達成率の計算方法（一部、例外有り）：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率
 =（「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」）× 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
A	
<p>年度目標を上回っておりA判定。 週1サロンが増加し、地域の介護予防に対する意識が向上した。 今後は【戦略15】を推進することで、サービスBの普及を強化したい。</p>	

エ 外部評価

各委員の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
各委員の意見	
○	市民への浸透が重要
◎	地域の介護予防に対する意識向上が十分みられる。
◎	さらなる取組強化・拡充に期待。
◎	目標クリアしているの
◎	高齢者が活動できるイベントや軽スポーツ、集う場所が充実していると思います。
◎	実際増えているし、介護予防に対する意識も地域で向上しているだろうと思う。
△	サロンは増えているようですが、介護予防に繋がっているのか疑問に思える。
○	
●	大鍬屋ひらすんま会や福野北部の視察団体は県内各所から来ている しかし南砺市内に対する 行政サイドからの推奨活動や 個別のアプローチが全く行われていない
◎	量的目標（事業所数）も達成できており、内部評価では、質的内容への改善にも踏み込まれており、順調であると思います。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
A	【戦略15】小規模多機能自治の下、各地区で実施される高齢者対策事業を促進するため、介護予防・日常生活支援活動拠点施設改修及び備品等整備事業をインセンティブとして、平成31年度までにサービスB事業の10箇所での実施を目指す。

主管課	健康課	関係課	
-----	-----	-----	--

ア 体系区分

施策区分	施策 I-④ 平均寿命と健康寿命を延伸
この施策の中で取り組む事業	19 「あなたのからだをナビゲート」事業

イ 指標と達成率

KPI 4	がん検診受診率									
指標の説明、確認方法	以下の理由から、がん検診のうち、「肺がん検診受診率」を指標とする。 ①対象者が他のがん検診よりも多い、②10年生存確率ががん検診の中で最も低い、③市の受動喫煙防止対策の取組と関連する ※なお、今後対象者の高齢化が進むことによる未受診者の増加が想定されるため、目標値を南砺市民健康プランで設定している50%を確保することとしたい。									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
53	-	-	50	50	50	50	%	51.7	103%	103%
	(前年に対する変化目標)									
	-	-	-3	0	0					

※達成率の計算方法(一部、例外有り) : 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」 / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A: かなりの効果があった(8割以上) B: まずまずの効果があった(7割程度) C: 少しは効果があった(改善・進展) D: まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E: 効果が見込めない(悪化・停滞)
B	
年度目標を達成しているものの平成28年度と比べ低下しておりB判定。 肺がん検診は、胸部レントゲン検査やヘリカルCT検査による短時間で苦痛のない検査方法を用いており、他のがん検診と比較しても受診しやすいことや、感染症予防としての検診であることを健康ポータルサイトをはじめ、あらゆる機会を通じて周知し、受診につなげたい。	

エ 外部評価

各委員の評価	◎: 効果があった ○: 少しは効果があった △: 現段階ではまだ判断できない ●: 効果が見込めない
	各委員の意見
○	市民への浸透が重要
○	より一層の受診率向上に向け啓もう普及に努めること。各団体との連携を強化すべき。
○	検診受診による好事例、有効性をPRし、受診率を高める工夫が必要。
◎	目標達成し、実績もでている
△	目標が達成されても、受診率が50%というのは問題なのではないでしょうか。
○	受診しやすさや必要性をいろんな方法で、そしてくり返し周知したらよいと思う。それぞれのタイミングやひっかかるポイントがあると思うので。
○	
△	
△	
○	罹患者も死亡者も多い肺がんを切り口に、成果を挙げられている事は良いと思う。目標値は、できれば引き上げていただければ。逆に、肺がん健診の受診率が限界であれば、胃がんなど、次の順位のがん対策へ展開を考えられてもよいかと。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
B	がん検診の受診方法を周知するタイミング等を検討するとともに、健康ポータルサイトを活用した個人負担金の減額や、がん検診受診者に抽選で共通商品券等を贈呈するインセンティブを実施することで、さらなる受診率の向上に努めたい。

主管課	商工課	関係課	地方創生推進課
-----	-----	-----	---------

ア 体系区分

基本目標	基本目標Ⅱ 多様な仕事を育む地域課題解決のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 起業・コミュニティビジネス支援と就業支援 ② 企業誘致の推進と新たなビジネスを支える地域創生ファンドの組成 ③ 南砺版エコノミックガーデニングの構築 ④ クリエイターの集積による新たな魅力の創造 ⑤ 五箇山&南砺ブランド商品の開発と販売促進 ⑥ 職人育成と伝統工芸の維持

イ 指標と達成率

数値目標 2-1	若者、女性の就業率	関連する施策区分	①②							
指標の説明、確認方法	23歳以上の若者（35歳以下）と64歳以下の女性のうち、給与・農業・事業所得がある人数から給与収入額が103万円以下の人数を除き、当該対象の総数で除した割合									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)	
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度						H31年度
73.6 (H27)	-	-	74	74.5	75	76	%	74	99%	-
	(前年に対する変化目標)									
	-	-	-	0.5	0.5					

※達成率の計算方法（一部、例外有り）：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」 / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
A	
同じ計算方法を用いた場合の平成28年度の値より上昇しておりA判定。 女性では各年代の内、40代で最も高く、逆に最も低いのは60歳-64歳であるが、次いで低いのが30代となっており、結婚や出産を機に離職したか又は産休育休等で無給であると考えられる。	

エ 外部評価

各委員の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
各委員の意見	
◎	若者、女性の就業実態とその動機等をきちんと把握しておくべき。一方で離職等の推移もチェックの要。空き店舗や空き家の活用等も図り、就労機会、場の創出も積極的に行うべき。新しいU・Iターンの取り組みを市内外へ発信していくべき。
○	目標値も上昇しており、十分評価できる。年代層によりばらつきがある点は今後の課題として検討すべきか。
○	出産、育児期における多様な働き方を選択できる制度の普及。好事例のPR。
◎	
◎	具体的施策①～⑥に直接関連性がない結果のように感じますが、地域柄就労意識の高い地域なのではないでしょうか。
△	増えたは増えたが景気のことよくわからない。収入103万以下の人数が減る取り組みなどの成果であればわかる。
○	子どもは社会の財産なのに、産休育休が無給なのはおかしい、企業が負担できないなら社会が負うべき。
△	働き方は多様化している。「多様な仕事を育む」を目標としているわりに、収入が103万以下は就業していない、又は無給であると考えられてしまうのは残念。
○	
○	目標値が達成というのは素晴らしいが、指標が大きな枠組なので、施策の影響なのか社会環境の結果なのか不明瞭。若者・女性の別、各年代の別などを踏み込んで分析し、もう一段掘り下げた目標設定・対応施策としてPDCAを回していただきたい。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
A	市単独の就職・応援サイトの「なんとジョブ」等を活用して、各企業の特色や技術等の企業情報を内外に向けて発信をおこない、市内企業と連携して「その価値」を高めていき、若者、女性の就業率の増加につなげていく。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	商工課	関係課	地方創生推進課
-----	-----	-----	---------

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅱ-① 起業・コミュニティービジネス支援と就業支援			
この施策の中で 取り組む事業	27	奨学金を活用した大学生等の地方定着促進事業	34	小規模事業者後継者支援事業（商店後継者支援事業）
	28	起業家育成支援事業	35	地域おこし協力隊の地域への人材還流の推進
	29	女性起業家育成道場	36	就活・雇用促進事業
	30	母子家庭等就業・自立支援事業	96	空き家活用型しごとの場創出支援事業
	33	空き店舗対策支援事業		

イ 指標と達成率

KPI 7		若者、女性の就業者数									
指標の説明、 確認方法		23歳以上の若者（35歳以下）と64歳以下の女性のうち、給与・農業・事業所得がある人数から給与収入額が103万円以下の人数を除いた人数									
現状値 (H26 年度)	年度時点の目標数値					5年間の 目標値	単位	H29 年度 実績値	5年間の目標値 に対する 達成率(%)	年度時点の目標 数値に対する達 成率(%)	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度						
10641	-	-	10435	10249	10083	10083	人	10435	103%	-	
			(前年に対する変化目標)								
	-	-	-206	-186	-166						

※達成率の計算方法（一部、例外有り）：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率
 =（「対象年度の実績値」／「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」）× 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率 に対する事業効果	総合戦略に	A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
A		

平成28年度より減少しているが人口減少率より高いためA判定

エ 外部評価

各委員 の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
	各委員の意見
◎	若者、女性の就業実態とその動機等をきちんと把握しておくべき。一方で離職等の推移もチェックの要。空き店舗や空き家の活用等も図り、就労機会、場の創出も積極的に行うべき。新しいU・Iターンの取り組みを市内外へ発信していくべき。
○	現時点で効果は上がっているものと考え。
○	継続的に実施。
○	目標に達していないこと。若年層の就業者の増加が鍵としますので。
◎	共働き世帯が多く、女性の就労に理解がある地域。
△	増えたは増えたが景気のことよくわからない。収入103万以下の人数が減る取り組みなどの成果であればわかる。
○	実際には仕事を求めているながら、正規雇用されない人が、数値には出ていない。
○	地域おこし協力隊のご活躍や今まで使われていなかった空き家が活用され始めた様子を、新しい活気が期待される。
△	
○	目標値が達成というのは素晴らしいが、指標が大きな枠組なので、施策の影響なのか社会環境の結果なのか不明瞭。若者・女性の別、各年代の別などを踏み込んで分析し、もう一段掘り下げた目標設定・対応施策としてPDCAを回していただきたい。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
B	市単独の就職・応援サイトの「なんとジョブ」等を活用して、各企業の特徴や技術等の企業情報を内外に向けて発信をおこない、市内企業と連携して「その価値」を高めていき、若者、女性の就業者数の増加につなげていく。

主管課	商工課	関係課	
-----	-----	-----	--

ア 体系区分

基本目標	基本目標Ⅱ 多様な仕事を育む地域課題解決のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 起業・コミュニティビジネス支援と就業支援 ② 企業誘致の推進と新たなビジネスを支える地域創生ファンドの組成 ③ 南砺版エコノミックガーデニングの構築 ④ クリエイターの集積による新たな魅力の創造 ⑤ 五箇山&南砺ブランド商品の開発と販売促進 ⑥ 職人育成と伝統工芸の維持

イ 指標と達成率

数値目標 2-2	新規起業(家)数	関連する施策区分	③④						
指標の説明、確認方法	これまでに、起業家育成支援事業、空き店舗対策支援事業及び小規模事業者後継者支援事業の補助制度を活用し、起業又は事業継承された事業所数、および、それ以外にH27年度以降に商工会に新規で加入された数の合計								
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度					
15	32	49	66	83	100	件	104	104%	158%
	17	17	17	17	17				

※達成率の計算方法(一部、例外有り)：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率
 =(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
B	
年度目標を上回っているものの、単年度起業数が平成28年度実績から大幅に減少しておりB判定。(H28:44件→H29:20件)	

エ 外部評価

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
○	若者、女性の就業実態とその動機等をきちんと把握しておくべき。一方で離職等の推移もチェックの要。空き店舗や空き家の活用等も図り、就労機会、場の創出も積極的に行うべき。新しいU・Iターンの取り組みを市内外へ発信していくべき。
○	年度目標は上回っている。団体等の会員数が減少傾向にあることから、高齢化により廃業等ともあわせ全体でとらえることが必要。
○	商工会との連携が不可欠。
○	起業数が伸びているのは良いこと。一方、どれだけ継続してもらえるかも見ていく必要がある。
△	個人規模の企業の起業が増えても雇用に結びつかないのではないのでしょうか。起業数だけでなく規模も大切ではないのでしょうか。
△	ある一定数は起業済?起業を考えている人が“南砺市で”起業しようと思う新たなしかけが必要かも。
○	新規起業は継続されているのか、その後の実態を知りたい。
○	商工会等との連携で制度を利用しやすくなったのでは?起業後もどう支援していくかも重要。
●	
○	昨年度減とはいえ、着実に数値を積み重ねているのは非常に素晴らしい。KPI10のクリエイター以外についても、体系区分の各施策が起業家の押し上げにどの程度効果があるのか、起業家へのアンケートなどで精査し、よりよい施策に繋げていただきたい。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
B	起業の促進は、雇用創出や地域の活性化に重要だと考えており、起業後の成功率を高め、事業者の成長に貢献できるように商工会と連携した伴走型経営支援の強化を図っていく。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	企業誘致推進室	関係課	商工課
-----	---------	-----	-----

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅱ-③ 南砺版エコノミックガーデニングの構築
この施策の中で取り組む事業	37 南砺市まちづくりファンド 38 既存工業団地の無償譲渡で企業誘致 39 企業立地奨励事業小規模事業者応援制度

イ 指標と達成率

KPI 9		新規雇用者数								
指標の説明、確認方法		企業立地助成金事業のうち「雇用創出事業」の対象である市内に住所を有する新規雇用従業員数の合計（H26からの累計）								
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
3	22	42	61	81	100	100	人	32	32%	52%
	(前年に対する変化目標)									
	19	20	19	20	19					

※達成率の計算方法（一部、例外有り）：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率
 =（「対象年度の実績値」／「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」）× 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
C	
<p>年度目標に達していないものの、平成28年度より増加しているためC判定。 有効求人倍率が高い水準で推移しており、企業としては雇用したいが、人が確保できない状況である。 （改善点） 「企業立地振興事業」により、企業の設備投資は活発になっているほか、昨年度途中よりHP「なんとジョブ」を開設したことから、今後掲載企業数の増や移住セミナー等でのPRを行うことで新規雇用の増加につなげたい。</p>	

エ 外部評価

各委員の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
	各委員の意見
○	若者、女性の就業実態とその動機等をきちんと把握しておくべき。一方で離職等の推移もチェックの要。空き店舗や空き家の活用等も図り、就労機会、場の創出も積極的に行うべき。新しいU・Iターンの取り組みを市内外へ発信していくべき。
△	ビジネスマッチング等雇用全体をとらえて考察すべき。人材確保に従来以上に力点をおくべき。
△	今後に期待。
△	
△	魅力ある企業がふえることが雇用に結びつくのではないのでしょうか。その誘致も大切だと思います。
△	Uターン者の雇用増をもっとねらうといい。
△	有効求人倍率が高くても、条件から振り落とされる人が多くては意味がない。
△	
●	
△	求人が多い中、新規雇用者数が少ない、という所で、人材が確保できていない状況、と分析を踏み込んでいただいているのは素晴らしい。高齢者の活用などについても、是非踏み込んで施策に組み込んでいただければ、と思います。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
D	就職支援HP「なんとジョブ」掲載企業数の増や移住セミナー等でのPRとともに企業誘致を行うことで、U・Iターンによる新規雇用の増加につなげたい。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	商工課	関係課	地方創生推進課
-----	-----	-----	---------

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅱ-④ クリエイターの集積による新たな魅力の創造
この施策の中で取り組む事業	42 クリエイター育成マッチング事業 44 情報活用スペシャリスト投入事業「IT版地域おこし協力隊(フェローシップ)」

イ 指標と達成率

KPI 10	クリエイター移住者数									
指標の説明、確認方法	市内のクリエイティブ産業関係事業所に聴取した市内に転入された従業員数の合計									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
0	20	40	60	80	100	100	人	52	52%	87%
	(前年に対する変化目標)									
	20	20	20	20	20					

※達成率の計算方法(一部、例外有り)：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率
 =(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
B		
年度目標の9割近くを達成しているものの単年度移住者数が平成28年度実績より大幅に減少しておりB判定。(H28:29人→H29:10人)		

エ 外部評価

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
○	若者、女性の就業実態とその動機等をきちんと把握しておくべき。一方で離職等の推移もチェックの要。空き店舗や空き家の活用等も図り、就労機会、場の創出も積極的に行うべき。新しいU・Iターンの取り組みを市内外へ発信していくべき。
○	目標値は達成されている。やや数値的に落ち着いた感があり、新たな事業展開も必要か。
○	継続的な取組に期待。
△	
△	クリエイター移住を望む市の考えがわかりませんが、数が伸びないのは、クリエイターが望む、そして、住みやすく活動しやすい条件が南砺市にあることの周知が足りないのではないのでしょうか。
○	一定数は移住?更なる一手が必要かも。
△	どんな効果が出ているのかわからない。
○	今後、継続的で地域との関わりが深まれば良い。
●	立派な三角屋根ができたが 何をどうしたいか わからない
○	未達とはいえ着実に数値を積み重ねられており素晴らしい。クリエイタープラザ関連の移住者も徐々に定着してきていると思うので、移住者の満足度調査などを通じて、移住者に更なる移住者を呼び込んでもらえるよう、もう一歩踏み出していれば。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
B	【戦略42】クリエイター育成マッチング事業を推進し、クリエイターが活動しやすい環境づくりを進める。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	商工課	関係課	農林課
-----	-----	-----	-----

ア 体系区分

基本目標	基本目標Ⅱ 多様な仕事を育む地域課題解決のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 起業・コミュニティービジネス支援と就業支援 ② 企業誘致の推進と新たなビジネスを支える地域創生ファンドの組成 ③ 南砺版エコノミックガーデニングの構築 ④ クリエイターの集積による新たな魅力の創造 ⑤ 五箇山&南砺ブランド商品の開発と販売促進 ⑥ 職人育成と伝統工芸の維持

イ 指標と達成率

数値目標 2-3	南砺市ブランド商品年間販売額	関連する施策区分	⑤⑥						
指標の説明、確認方法	農産品：市内産物直売所・農産加工品販売額（砺波農林振興センター「普及指導計画書より）及びその他の主な農産加工品販売額（市農林課調査）を合計したもの、商工：自治体特選ストア販売額及び伝統的工芸品販売額（市商工課より井波彫刻及び五箇山和紙の組合へ聴取）の合計額								
現状値（H26年度）	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度					
18	18.6	18.9	19.3	19.6	20	億円	18	88%	91%
	(前年に対する変化目標)								
	0.4	0.3	0.4	0.3	0.4				

※達成率の計算方法（一部、例外有り）：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」 / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
A		

厳しい生産販売環境であるが達成率90%以上のためA判定。
 なお、平成30年度から新制度に移行しており、ブランド商品の魅力の更なる向上に取り組むことで販売額の向上を図る。

エ 外部評価

各委員の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
	各委員の意見
○	ブランドとは、未来に向けての新たな取組みを推奨するものでなくてはならず、旧来の踏襲ではだめ。また、南砺ローカルが世界にも通用するような取組みを応援出来るブランド認定にして欲しい。
○	平成30年度より新制度への移行がはじまり、全体として適正かと考えられる。
◎	今後も積極的な取組を。
◎	
◎	関係者の取組みと努力がみられるのだと思います。
○	生産したらその分は売れているということかなと思う。もっと「南砺市」ブランドが前面に出るアピールができるようになればいい。
○	実感がない。
○	せっかく開発された商品が、消費者に選ばれる様に、南砺市のブランド力がUPする様に、たゆみない取組みを。
△	
●	厳しい環境とはいえ、H26年現状値まで割り込んでいる状況での自己評価Aは大きな違和感。対策も何のレビューにもなっていない。適切な評価のため、厳しい環境でも正常に機能する目標値へ切替や、対策の検討など、具体検討への落とし込みが急務。

オ 最終評価及び今後の取組みと改善点

最終評価	今後の取組みと改善点
A	「ストーリー」と「デザインのカ」でモノを売ることコンセプトとして、新たな審査基準を定めて選定する「なんと幸せのおすそわけ」商品の募集を開始。6月に1次審査を実施し、通過した91商品の中から11月に行なう最終審査を経た商品を南砺ブランドとして選定し、販売等の支援を行なっていく。また、選定されなかった商品についても審査員の意見をフィードバックしながら、商品力を向上させる支援を行なって、売り上げを上げていく。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	商工課	関係課	地方創生推進課、農林課、企業誘致推進室
-----	-----	-----	---------------------

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅱ-⑤ 五箇山&南砺ブランド商品の開発と販売促進
この施策の中で取り組む事業	45 南砺ブランド商品開発支援

イ 指標と達成率

KPI 11	南砺ブランド商品登録品目数									
指標の説明、確認方法	なんとのおほんまもん、自治体特選ストア、なんとのお土産、なんとのおうまいもんに掲載、登録されている総品目数									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の 目標値	単位	H29 年度 実績値	5年間の目標値 に対する 達成率(%)	年度時点の目標 数値に対する達 成率(%)
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度					
258	266	275	283	292	300	300	品目	588	196%	208%
8	9	8	9	8						

※達成率の計算方法(一部、例外有り)：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率
 =(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率 に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
A		

最終年度目標を達成しておりA判定。

なお、平成30年度から新制度に移行しており、ブランド商品の登録品目数は数を絞り、南砺ブランドとして推すに相応しい上位の品のみ認定をする方針であり、数値目標の達成に当たっては【戦略45】による商品の磨きあげや販路拡大がより重要になる。

エ 外部評価

各委員 の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
○	ブランドとは、未来に向けての新たな取組みを推奨するものでなくてはならず、旧来の踏襲ではだめ。また、南砺ローカルが世界にも通用するような取組みを応援出来るブランド認定にして欲しい。
○	登録品目数にのみとられることなく内容の吟味も必要(平成30年度新制度移行に期待する)
◎	30年度方針を踏まえ取り組んでほしい。
○	
○	数だけからすると、着実に増えているので評価できると思います。
◎	数がすごい増えている。
◎	
◎	様々な商品が開発され、取り組みへの成果は見られる。
△	
△	上位目標の「数値目標2-3」が壊滅的な中、傘下のKPIだけ達成だからAとするのは違和感があります。前項と異なり現状把握と今後の対策が記載されているのは良いですが、「商品の磨き上げ」の表現からは具体的な対策のイメージが全くつきません。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
A	「ストーリー」と「デザインのカ」でモノを売ることをコンセプトとして、新たな審査基準を定めて選定する「なんと幸せのおすそわけ」商品の募集を開始。6月に1次審査を実施し、通過した91商品の中から11月に行なう最終審査を経た商品を南砺ブランドとして選定し、販売等の支援を行なっていく。また、選定されなかった商品についても審査員の意見をフィードバックしながら、商品力を向上させる支援を行なって、登録品目数を増やしていく。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	商工課	関係課	地方創生推進課、エコビレッジ推進課
-----	-----	-----	-------------------

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅱ-⑥ 職人育成と伝統工芸の維持
この施策の中で取り組む事業	48 伝統的工芸品後継者育成支援事業 50 桜ヶ池合掌造り家屋「かず良」で養蚕・絹糸再生事業

イ 指標と達成率

K P I 12-1		伝統的工芸職人数								
指標の説明、確認方法		井波彫刻協同組合及び五箇山和紙の組合に聴取した組合員及び和紙従業者数								
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
137	137	137	137	137	137	137	人	132	別途判定	別途判定
	(前年に対する変化目標)									
	0	0	0	0	0					

※達成率の計算方法(一部、例外有り) : 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」 / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A: かなりの効果があった(8割以上) B: まずまずの効果があった(7割程度) C: 少しは効果があった(改善・進展) D: まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E: 効果が見込めない(悪化・停滞)
B	
年度目標を9割をこえているものの、平成28年度より従事者数が減少しておりB判定。	

エ 外部評価

各委員の評価	◎: 効果があった ○: 少しは効果があった △: 現段階ではまだ判断できない ●: 効果が見込めない
各委員の意見	
○	ブランドとは、未来に向けての新たな取組みを推奨するものでなくてはならず、旧来の踏襲ではだめ。また、南砺ローカルが世界にも通用するような取組みを応援出来るブランド認定にしたい。
○	より一層のブラッシュアップを図る施策を、又環境整備、横のつながり、連携強化をはかられたい。
○	今後さらに期待。
△	伝統工芸職人の定着について支援も含めもっと考えていく必要があると思います。
○	従事者数の減少は、当事業の必要性が問われるのではないのでしょうか。事業があっても人数減の歯止めにつながっていないと思います。
△	職人を新たに受け入れていく流れと、市内外への発信が必要では。
○	伝統的工芸職人が今後増えるとは考えにくい。
◎	簡単に真似出来ない「南砺らしさ」の財産。若者が憧れ、職業として選択出来るよう、生活面の保障や、プランニング、コンサルティング等の支援も。
●	
△	伝統的工芸職人数、という非常に特殊かつ数の少ない目標値の中で、職人数という数値だけでは、評価が難しい。新しい職人の有無によって、施策評価が全く異なる。年齢階層別の増減など、もう一段細かい補助指標を挙げていただけると良いのでは。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
B	引き続き、伝統的工芸品職人の後継者育成に支援を行いながら、本年度新設した新しい市場を切り拓いていくことを目的とした「伝統的工芸品産業再生支援事業」に伝統的工芸品産業界と連携して取り組んでいく。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	農林課	関係課	
-----	-----	-----	--

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅱ-⑥ 職人育成と伝統工芸の維持
この施策の中で取り組む事業	59 農産物直売所5億円産業化 61 6次産業化支援融資事業 64 新規就農支援事業の実施

イ 指標と達成率

KPI 12-2	南砺ブランド商品（農産物）年間販売額									
指標の説明、確認方法	市内産物直売所・農産加工品販売額（砺波農林振興センター「普及指導計画書より」）及びその他の主な農産加工品販売額（市農林課調査）を合計したもの									
現状値（H26年度）	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率（%）	年度時点の目標数値に対する達成率（%）
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
11.4	11.7	12	12.3	12.6	13	13	億円	11.1	85%	90%
	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4					

※達成率の計算方法（一部、例外有り）：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率＝（「対象年度の実績値」／「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」）×100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
A	
<p>厳しい生産販売環境であるが達成率90%以上のためA判定。 農業者の高齢化、天候不順により販売額は前年並</p>	

エ 外部評価

各委員の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
各委員の意見	
○	ブランドとは、未来に向けての新たな取組みを推奨するものでなくてはならず、旧来の踏襲ではだめ。また、南砺ローカルが世界にも通用するような取組みを応援出来るブランド認定にして欲しい。
○	高齢化、生産者意欲の向上に努めるよう進めて欲しい。災害対応への取組み策も検討すべきでは。
○	天候による変動があり評価しにくいのでは。
○	
○	対象や販路など更なる取組みの工夫が必要ではないでしょうか。
△	高齢化と天候不順への不安。それに勝る強固な南砺ブランド力があるといい。
◎	
○	農業の盛んなところは多い。身体に安全な南砺市規格の特別栽培野菜や加工品等、様々な面から独自性があり、差別化されるものへ。
△	
●	厳しい環境とはいえ、H26年現状値まで割り込んでいる状況での自己評価Aは大きな違和感。対策も何のレビューにもなっていない。適切な評価のため、厳しい環境でも正常に機能する目標値へ切替や、対策の検討など、具体検討への落とし込みが急務。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
B	南砺ブランド商品開発支援(なんと幸せのおすそわけ)による商品の磨きあげをおこなうとともに、生産者自ら、首都圏等で開催される販売イベントに積極的に参加し販路拡大を進める。

主管課	南砺で暮らしません課	関係課	
-----	------------	-----	--

ア 体系区分

基本目標	基本目標Ⅲ 南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイルのまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① コミュニティビジネスの支援と笑顔あふれる豊かな地域の創造 ② 木質バイオマスエネルギー等の活用 ③ 地産地消推進による食の自給率向上 ④ 南砺の農林水産業の維持と新たな挑戦 ⑤ 森里川海のつながりでいのち湧く地域の形成 ⑥ 公共施設再編計画の実現

イ 指標と達成率

数値目標 3-1	自治会町内会行事に参加している市民の割合	関連する施策区分	①							
指標の説明、確認方法	(市民意識調査) 過去1年間に自治会町内会行事に参加したことがあると回答した数/有効回答数									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)	
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度						H31年度
79	80	80	80	80	80	80	%	75	93%	93%
	1	0	0	0	0					

※達成率の計算方法(一部、例外有り) : 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A: かなりの効果があった(8割以上) B: まずまずの効果があった(7割程度) C: 少しは効果があった(改善・進展) D: まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E: 効果が見込めない(悪化・停滞)
D	

平成28年度より低下しておりD判定。

50代以上では全ての年代で80%を超えているが、年代が低下していくごとに参加率は低下していく。(改善点)

自治振興会単位で推進している小規模多機能自治の推進において、若者や女性の参加を積極的に行える組織のあり方等について検討して頂いており、自治会町内会においても、その展開により積極的に参加する若者の割合が増えることにつなげたい。

エ 外部評価

各委員の評価	◎: 効果があった ○: 少しは効果があった △: 現段階ではまだ判断できない ●: 効果が見込めない
	各委員の意見
○	若者女性の参加を増やすとともに、自治会等の役割の中に防災の視点を織り込むべき。
△	若年層の参加が課題となっている。組織のあり方を含め参加しやすい環境づくりが望まれる。
△	継続的な取組は必要。
●	周囲を見て、地域行事、町内会等を負担に感じる若者は少なくない。民間企業の姿勢もある。企業側へのアプローチ(働いて夜遅いや上司の理解がない等がないように)必要。
△	参加するのは50歳以上が多いのはあたりまえで、内容を決めているのがその年代です。事前の会合や役員に女性を多く入れないと、何をやっても結果は同じだと思います。今や女性の意見の方がより現実的的確性もあると思います。
△	祭りだけとか、年に一度くらい参加しても少ないのに、何にも参加しない市民が多いのであればさびしい。年代が低下していくごとに、というのは10代も?
△	若い世代はスケジュールが過密で、そこに様々な団体のイベントがあるから地縁組織の意味が薄れている。
△	小規模多機能自治へ向けての動きは感じられるが、言葉だけが拡散されて具体的にどうなるのかわからない。若い世代も魅力や必要性を感じ取り組める方向へ。
△	
△	評価としては△ですが、難しい項目だと思います。改善点もきちんと挙げていただけており、担当者の方々の苦勞が見られます。どうしても自治会等、間接的なアプローチになる部分が多いと思いますが、引き続き地道な努力が実を結ぶと思います。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
D	小規模多機能自治を推進する中で、若者や女性の参加を積極的に行える組織づくりを図りたい。また、地域づくり支援員が、若者や女性が参加できるよう働きかける。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	南砺で暮らしません課	関係課	地域包括ケア課、交流観光まちづくり課
-----	------------	-----	--------------------

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅲ-① コミュニティビジネスの支援と笑顔あふれる豊かな地域の創造
この施策の中で取り組む事業	51 総合型自治振興会強化プラン 52 南砺市版 空き家再生等推進事業 79 なんと市民開催 まちづくり塾支援事業

イ 指標と達成率

KPI 13	コミュニティビジネス等に取り組む自治会等の数									
指標の説明、確認方法	地域課題解決に住民協働で取り組む「介護予防・日常生活支援総合事業」や「総合型自治振興会」、「空き家再生等推進事業」といった地域活動やコミュニティビジネスを実践する自治振興会、自治会、団体の合計数									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
0	0	10	20	30	40	40	団体	8	20%	40%
-	10	10	10	10						

※達成率の計算方法(一部、例外有り)：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」 / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
D	

平成28年度から増加がなく、停滞していることからD判定。
大きな要因として、平成31年4月から小規模多機能自治をスタートすることとし、全自治振興会へ説明会を行うなどした結果、組織作りに人や時間が多く必要になり、新たな活動を始める余力を結果として奪ってしまったことがある。
(改善点)
平成30年度は「総合型自治振興会強化プラン」を拡充しており、組織作りと同時に動き始められるよう、支援を進めていきたい。

エ 外部評価

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
○	小規模多機能自治の導入へ切り替えて効果浸透をはかるべき
△	現在進められている小規模多機能自治への取組とあわせ今後の展開に期待したい。
△	継続的な取組は必要。
●	
△	住民意識の中にどれだけ浸透しているのでしょうか。
△	1件も増加がない。
△	参加者住民に余裕がないのでは?
△	
●	
△	現状未達であるものの、現状の分析が、反省点を含めてしっかりと為されており、また、今後の改善点についても、可能性が感じられますが、頑張っ進めていただければ、と思います。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
D	平成30年度は「総合型自治振興会強化プラン」を拡充しており、小規模多機能自治の組織作りと同時に動き始められるよう、支援を進めていきたい。

主管課	エコビレッジ推進課	関係課	
-----	-----------	-----	--

ア 体系区分

基本目標	基本目標Ⅲ 南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイルのまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① コミュニティビジネスの支援と笑顔あふれる豊かな地域の創造 ② 木質バイオマスエネルギー等の活用 ③ 地産地消推進による食の自給率向上 ④ 南砺の農林水産業の維持と新たな挑戦 ⑤ 森里川海のつながりでいのち湧く地域の形成 ⑥ 公共施設再編計画の実現

イ 指標と達成率

数値目標 3-2-1	地域資源の利活用(熱量)	関連する施策区分	②④⑤							
指標の説明、確認方法	ペレットストーブ設置補助金により設置された台数に対し、ストーブ1台当たり1t(17GJ)の熱消費量を乗じて算出した熱量の合計									
現状値(H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)	
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度						H31年度
595	816	1037	1258	1479	1700	1,700	GJ	1,326	78%	105%
	221	221	221	221	221					

※達成率の計算方法(一部、例外有り)：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率
 =(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
A	

年度目標を上回っておりA判定。
 平成29年度は15件助成しており、ペレットストーブの普及に効果が出ている。
 今年度、市内でのペレット生産が始まることにより、地域資源の循環が更に進むと考えられる。

エ 外部評価

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
○	エコビレッジ構想の具体化の姿を市民により広く情宣していくべき。また、南砺市版SIBの導入開始を来年度に向けて要検討。子どもたちへの味覚からのシビックプライドのうえつけはより強化していくべき、栄養士、調理師連携も。
○	目標値を上回っており今後の効果に十分期待したい。
○	効果が分かりにくい。今年度ペレット生産に期待。
○	
△	ペレット事業は整備費用が高く、利用者負担も高いというイメージがあります。なので普及は困難ではないでしょうか。事業を進める理由とどこまで普及をめざすのかがわかりません。
◎	ペレット生産が始まるなど期待できる。知り合いにペレットストーブを導入した人がいる。そうしてまた広がっていく気がする。
◎	木質資源の有効利用は進んでいるのが実感できる。
○	地域資源の活用が自然環境保護と一体となって継続的に循環されることを期待。
●	
◎	目標も達成されており、市内でのペレット生産など、次の段階への行動も着実に進められていると思います。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
A	今年度、市内でのペレット生産が始まることにより、地域資源の循環が進むことにあわせ、エコビレッジ構想の具体化した姿として市民に周知を図りたい。

主管課	農林課	関係課	エコビレッジ推進課
-----	-----	-----	-----------

ア 体系区分

基本目標	基本目標Ⅲ 南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイルのまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① コミュニティビジネスの支援と笑顔あふれる豊かな地域の創造 ② 木質バイオマスエネルギー等の活用 ③ 地産地消推進による食の自給率向上 ④ 南砺の農林水産業の維持と新たな挑戦 ⑤ 森里川海のつながりでいのち湧く地域の形成 ⑥ 公共施設再編計画の実現

イ 指標と達成率

数値目標 3-2-2	地域資源の利活用（地場産食材）	関連する施策区分	③④						
指標の説明、確認方法	（市民意識調査）地場産食材を意識して購入している市民の割合								
現状値（H26年度）	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度					
37	43	45	40	40	40	%	33	83%	83%
5.6	（前年に対する変化目標）				2				

※達成率の計算方法（一部、例外有り）：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率
 =（「対象年度の実績値」／「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」）× 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
D	

平成28年度より低下しておりD判定。

この指標は「地場産食材を意識して購入している市民の割合」であり、女性に限定すると44.5%の方が「意識して購入する」と回答している。また、年齢別では10代、20代で低く、70代以上で高い。

（改善点）

地場産品を販売している農産物直売所の販売体制について見直しを行うなど、市民が地場産品を購入しやすい場所やしぐみづくりを働きかけていく。また、地場産食材を扱う飲食店が増えることで、意識の向上に繋がることが期待される。

エ 外部評価

各委員の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
	各委員の意見
○	エコビレッジ構想の具体化の姿を市民により広く情宣していくべき。また、南砺市版SIBの導入開始を来年度に向けて要検討。子どもたちへの味覚からのシビックプライドのうえつけはより強化していくべき、栄養士、調理師連携も。
△	各々の団体等でさまざまな取組みがなされており努力は評価できるものの数値としてあらわれていない。課題を分析・検討し次につなげられたい。
△	地場産食材の良さをもっとPR。
△	アンケートと同時に販売業者側に伸びてるか否かを聞くことも必要ではないか。
○	直売所の営業時間や場所の工夫があればもっと活用されると思います。地元の人が買いやすい環境にしてほしいです。（若い人達）
△	地場産食材を食べようキャンペーンみたいのをしたらどうか。
○	地場産食材をどのように使えばいいのかわかる必要がある。
△	南砺市は自然が豊かと言いながら、なかなか恩恵と生活が結びついていないところがある。職も新鮮、安心、フードマイレージ等、地場産推奨へ。
△	
●	単年度も未達な上、H26現状値も下回っており不振。改善点もイメージワードのみで具体策がない。興味が無いのか、知っているが選ばないのか、欲しいがアクセスが悪いのか等、段階に分けて課題を整理分析し、具体的なアクションへ繋げてほしい。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
D	地場産品を販売している農産物直売所の販売体制について見直しを行う、地場産食材の使い方をあわせてPRするなど、市民が地場産品を購入しやすい場所やしぐみづくりを働きかけていく。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	エコビレッジ推進課	関係課	
-----	-----------	-----	--

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅲ-② 木質バイオマスエネルギー等の活用
この施策の中で取り組む事業	55 再生可能エネルギー推進事業 56 薪ステーション「木材利用でエコな生活を」 57 エコビレッジ住宅ゾーン基本計画策定及び分譲事業

イ 指標と達成率

KPI 14		木質ペレット利用量								
指標の説明、確認方法		南砺市の公共施設における1年間のペレット利用量								
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
80	188	296	404	512	620	620	t	1063	171%	263%
	108	108	108	108	108					

※達成率の計算方法(一部、例外有り)：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率
 =(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
A	

年度目標を達成しておりA判定。
 公共施設6箇所のペレットボイラーの稼働率を上げ利用量を増やすとともに、公共施設のペレットストーブを整備し利用量を増やしていく。

エ 外部評価

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
○	エコビレッジ構想の具体化の姿を市民により広く情宣していくべき。また、南砺市版SIBの導入開始を来年度に向けて要検討。子どもたちへの味覚からのシビックプライドのうえつけはより強化していくべき、栄養士、調理師連携も。
○	順調に推移しているものと思われる。
◎	目標値の見直しを検討してもよいのではないかと。
○	
○	利用量が増えていても、市民の日常生活の中で実感できるものがないと思います。それでは意味が薄れるのではないのでしょうか。
◎	とても増えている。更に増えそう。
◎	
○	
●	
○	数値目標3-2-1と別項目にする意味がわかりません。一つにまとめた上で、サブ項目としてペレットストーブ設置台数・ペレット利用量とした方が、スッキリするのではないかと、個人的には思います。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
A	目標値を上方修正し更なる向上に努める他、エコビレッジ構想の具体化した姿として市民に周知を図ることで、市民の実感につなげたい。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	農林課	関係課	教育総務課
-----	-----	-----	-------

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅲ-③ 地産地消推進による食の自給率向上
この施策の中で取り組む事業	58 地場産農作物消費向上事業 60 農・福連携食材活用支援事業

イ 指標と達成率

K P I 15		小中学校給食における地元産品使用率								
指標の説明、確認方法		富山県農産食品課調査「元気とふれあい学校給食づくり事業」への報告値（4月～翌年3月）								
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
29.5	30	31.3	32.5	33.8	35	%	30.7	88%	94%	
	0.5	1.3	1.2	1.3	1.2					

※達成率の計算方法（一部、例外有り）：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率
 =（「対象年度の実績値」／「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」）× 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
C	
<p>年度目標に届いていないが、平成28年度より伸びているためC判定。 平成29年度中は、天候不順による野菜等の不作もあり伸びが鈍くなった。 （改善点） 学校側の需要と、生産者側の供給のタイミングを合わせるにより増加に努めていきたい。</p>	

エ 外部評価

各委員の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
各委員の意見	
○	エコビレッジ構想の具体化の姿を市民により広く情宣していくべき。また、南砺市版SIBの導入開始を来年度に向けて要検討。子どもたちへの味覚からのシビックプライドのうえつけはより強化していくべき、栄養士、調理師連携も。
○	目標値は達成していないが、天候等にも影響をうけることを考慮すれば評価できる。今後も周知方法等を工夫し進められたい。
○	
△	学校側としっかり連携すれば達成できると思うので、頑張って欲しい。
◎	とても良い取組みだと思います。生産者と協力し、更なる強固な取組みを進めていただきたいです。
△	使用したくてもできない状況？捨てるはずの皮を使用した料理とか工夫でカバーできないか？
○	給食食材は前もって決める必要があるのが難しいのはわかるけど工夫して増やしてほしい。
△	作物が天候に左右されるのは大前提。より多くの農家との連携や学校側の献立対応。子ども達にも生産者の顔が見える取組みを。
△	
△	取組み指標としては非常に良い切り口であると思います。改善点で、需要と供給のタイミングをあわせる、との記述がありますが、具体的にどうされるのでしょうか。改善点が不明瞭だと思えます。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
C	学校側の需要と、生産者側の供給のタイミングを合わせる等更なる工夫により増加に努めていきたい。

主管課	農林課	関係課	エコビレッジ推進課
-----	-----	-----	-----------

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅲ-④ 南砺の農林水産業の維持と新たな挑戦
この施策の中で取り組む事業	66 五箇山茅場の造成補助事業 67 「森の学校」の創設

イ 指標と達成率

K P I 16		間伐面積									
指標の説明、確認方法		森林組合の単年度の間伐実施面積									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)	
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度						
213	213	223	233	246	260	260	ha	166	64%	71%	
0	(前年に対する変化目標)										10

※達成率の計算方法(一部、例外有り) : 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」 / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
D	

平成29年度中に指標を見直したばかりであり、事業の効果を判断できる段階に無いためD判定。
実績値としては総合戦略の開始時よりも減少しており、その要因には森林組合におけるマンパワー及び財源の不足がある。
(改善点)
担い手不足の解消につながる【戦略67】「森の学校」の創設に取り組むが、効果が出るまでにはまだ時間が必要である。今後は、森林環境譲与税の財源を活用して、担い手の育成を進めるとともに、間伐材を薪などのエネルギーとして活用する仕組みを進めることで指標の改善につなげたい。

エ 外部評価

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
各委員の意見	
○	森の学校の目指すゴールは何なのか、今一度しっかりと議論していくべき
△	現時点で評価はできない。今後の推移を見守りたい。
△	中・長期的な取り組みであり、継続的に実施。
△	
△	
△	森の学校を含めこれから。
△	
△	森を守る活動や目的を伝えることは大切だと思っている。単発的であっても閑乗寺公園など身近な山でも森の学校が開催されると良い。
●	
●	単年度未達&H26現状値を大きく下回り、非常に課題が大きい。指標を見直すのであれば、期間中に成果が見えるもの、例えば、「森の学校」計画へ年代毎認知度や期待など、もう一段、二段、落としこんだ目標設定とされるなど工夫いただきたい。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
D	森林環境譲与税の財源を活用した担い手の育成を進めるとともに、間伐材を薪などのエネルギーとして活用する仕組みを進めることで指標の改善につなげたい。ペレット工場への原木供給やバイオマスボイラーでの利用についても推進する。

主管課	行革・施設管理課	関係課	
-----	----------	-----	--

ア 体系区分

基本目標	基本目標Ⅲ 南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイルのまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① コミュニティビジネスの支援と笑顔あふれる豊かな地域の創造 ② 木質バイオマスエネルギー等の活用 ③ 地産地消推進による食の自給率向上 ④ 南砺の農林水産業の維持と新たな挑戦 ⑤ 森里川海のつながりでいのち湧く地域の形成 ⑥ 公共施設再編計画の実現

イ 指標と達成率

数値目標 3-3	縮減公共施設の有効活用面積	関連する施策区分	⑥							
指標の説明、確認方法	公共施設等総合管理計画に基づき譲渡した公共施設のうち、民間活用された施設面積の合計									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)	
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度						H31年度
0	0	3000	15000	27000	39000	39,000	m ²	2,358	6%	16%
-	3000	12000	12000	12000						

※達成率の計算方法(一部、例外有り)：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」 / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A：かなりの効果があった(8割以上) B：まずまずの効果があった(7割程度) C：少しは効果があった(改善・進展) D：まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E：効果が見込めない(悪化・停滞)
C	
年度目標に達していないが、平成28年度より伸びているためC判定。 目標達成には、譲渡価格や改修に係る費用、解体費用の負担が課題と考えられる。 (改善点) これまでの譲渡交渉により再編は進捗しているが、民間活用に向けた譲渡は少ないことから、再編推進施策の拡充や制度化によって民間事業者の提案しやすい環境を整備することで、民間への譲渡を進めていきたい。	

エ 外部評価

各委員の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
各委員の意見	
○	小規模多機能自治とも運動すべき
△	市の将来構想ともつながる部分であり、数値のみで判断すべきものではないと思われる。課題、現況を十分分析し取組むべき。
△	
●	バスツアーなどの取組を評価する。地道な活動、業者との連携を深めて欲しい。
△	数字が伸びているとはいえ、その実数はほんのわずか。市の財政状況からすると、この課題は最も緊急性が必要とされるので、この数字ではゼロに等しく、担当の垣根を越えて全体に取り組むべきではないでしょうか。
△	民間譲渡のメリットが民間に感じられず、抵抗があるのでは。
●	年月がかかりすぎており、今後どうなるのか展望に不安を感じる。
△	
●	
△	実績値大きく未達であり、不振。個別案件の条件差が大きいため、一概に対策は立てづらい面もあるかと思いますが、年度毎に重点設備等をサブ目標に掲げ、具体的な対策と分析を重ねるなど、毎年の成果の蓄積が見える形に組み替えても良いのでは。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
D	再編推進施策の拡充や制度化によって民間事業者の提案しやすい環境を整備することで、民間への譲渡を進めていきたい。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	行革・施設管理課	関係課	
-----	----------	-----	--

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅲ-⑥ 公共施設再編計画の実現
この施策の中で取り組む事業	70 公共施設再編後の施設を活用した企業誘致

イ 指標と達成率

K P I 18		譲渡募集に係る応募数								
指標の説明、確認方法		民間でも活用可能な施設を対象に、公募・利活用提案を募集し、応募された者の数								
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
0	-	-	25	50	75	75	件	4	5%	16%
	(前年に対する変化目標)									
	-	-	25	25	25					

※達成率の計算方法(一部、例外有り) : 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」 / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
C		
<p>年度目標に達していないが、平成28年度より伸びているためC判定。 目標達成には、譲渡価格や改修に係る費用、解体費用の負担が課題と考えられる。 (改善点) 今年度、民間事業者等を対象としたバスツアーを実施したところ、2件の応募に繋がった。今後も実際に施設の状況を確認いただける場を設けていきたい。あわせて、譲渡価格の減価や改修や解体の支援策を拡充、制度化することで民間事業者から応募しやすい環境を整備したい。</p>		

エ 外部評価

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
各委員の意見	
○	小規模多機能自治とも運動すべき
△	それぞれの課題に民間事業者と十分連携をし地道に進めるべき。慎重な対応が望まれる。
△	一層の努力が必要。
●	バスツアーなどの取組を評価する。地道な活動、業者との連携を深めて欲しい。
△	ゼロと比較して伸びているという判定は難しいです。
○	バスツアーは良い。新たな考えを持った他の民間業者が応募しやすくなる整備大事。
●	ハードルを下げても引き受け手が無いものは解体を進めて清算すべし。
△	
●	
△	実績値大きく未達であり、不振。個別案件の条件差が大きいので、一概に対策は立てづらい面もあるかと思いますが、年度毎に重点設備等をサブ目標に掲げ、具体的な対策と分析を重ねるなど、毎年の成果の蓄積が見える形に組み替えても良いのでは。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
D	バスツアー等、実際に施設の状況を確認いただける場を設けていく他、譲渡価格の減価や改修や解体の支援策を拡充、制度化することで民間事業者から応募しやすい環境を整備したい。

主管課	南砺で暮らしません課	関係課	地方創生推進課
-----	------------	-----	---------

ア 体系区分

基本目標	基本目標Ⅳ 文化・芸術・景観・ひとが紡ぐ交流のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 移住定住施策の推進 ② 市民がつながり、交流する仕組みづくりの支援 ③ 交流観光の推進 ④ 貢献市民の拡大 ⑤ 「文化芸術創造都市」としての魅力をさらに高める ⑥ 高校、高専、大学、大学院、民間企業などとの連携の拡充

イ 指標と達成率

数値目標 4-1-1	年間転入者数	関連する施策区分	①②							
指標の説明、確認方法	年間転入者数(4月～翌年3月) ※達成度の算出にあたっては、H26からの減少分(29人)を、H26からの増加目標(29人)で割ることで算出している。なお、実績値が現状値から見て負の値となっているため、達成度も負の数字になる。									
現状値(H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)	
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度						H31年度
1,012	1022	1031	1041	1050	1060	1,060	人	983	-60%	-100%
	10	9	10	9	10					

※達成率の計算方法(一部、例外有り)：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率
 =(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A：かなりの効果があった(8割以上) B：まずまずの効果があった(7割程度) C：少しは効果があった(改善・進展) D：まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E：効果が見込めない(悪化・停滞)
D	

平成28年度より減少しておりD判定。

転入奨励金等交付対象世帯は増えているが、近隣(砺波、小矢部)からの移住は減少傾向にある。また、平成28年度に比べると0歳～10歳の転入が減少していることから、子育て世代の転入が平成28年度に比べ少なかったものと考えている。

(改善点)

市内へのUターンや転入奨励制度及び市内での生活を応援する制度のチラシ(南砺へ帰ろう)を市内全戸に配布し、市内の親世代から市外転出者への周知を図り、子育て環境を併せてアピールすることで、子育て世代の転入につなげたい。また、「移住コンシェルジュ事業」を拡充し南砺市単独で移住セミナーを実施することで、引き続き、首都圏からの転入者の拡大に努めたい。

エ 外部評価

各委員の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
	各委員の意見
○	隣接する市村も含めた人口動態の把握も重要(二、三代目世帯が南砺を支えている構図を描けるか)。また、Iターン等の事例を広報でとりあげる等、南砺の魅力を市民に知ってもらおう活動が重要。特に子ども達に知ってもらおうためにも。
○	目標値の設定について熟慮すべき点もあると考えられる。転入元地域、年代に考慮すべき点も有か。
△	改善点の取組を着実に実施。
△	奨励金利用が増加する一方、転入者が減少しているのであればKPIの設定が違っているのかもしれないですね。
○	転入を増やし、転出を減らすには、テーマを決めたらどうでしょうか。色んなパターンの魅力づくり、砺波と比べて何が劣っているのか、どこに力を入れるべきか検討すべきだと思います。
△	転入者数増だけを考えると老年もターゲットにしたらいいが、実際働きざかりをターゲットでいいと思うので、数だけを気にしなくてもよいと思う。
△	移住を考える人々へのアピールに、注目されるような目玉がないのでは？
△	
△	
●	種々未達ですが、難しい目標値であり、大変な指標。現状分析、対策の検討共に、丁寧に進められている印象。数値目標自体、一朝一夕ではどうにもならない部分もあり、対策に拳がった項目等にサブ目標値を設けるなど、成果の蓄積をされれば良い。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
D	市内へのUターンや転入奨励制度及び市内での生活を応援する制度のチラシ(南砺へ帰ろう)を市内全戸に配布し、市内の親世代から市外転出者への周知を図り、子育て環境を併せてアピールすることで、子育て世代の転入につなげたい。また、市内の就労先の情報提供の充実や「移住コンシェルジュ事業」を拡充し南砺市単独で移住セミナーを実施することで、引き続き、首都圏からの転入者の拡大に努めたい。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	南砺で暮らしません課	関係課	こども課、交流観光まちづくり課
-----	------------	-----	-----------------

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅳ-① 移住定住施策の推進			
この施策の中で取り組む事業	72	移住定住者の保育料無料制度	78	定住支援事業
	73	定住促進雇用対策事業	23	山村留学定住事業
	74	五箇山地域に住まんまい家プロジェクト		
	75	ふるさと回帰転入助成事業		
	77	移住コンシェルジュ事業		

イ 指標と達成率

KPI 19		転入奨励金の年間交付件数								
指標の説明、確認方法		定住奨励金制度「南砺で住んでみんまいけ事業」の内の、転入奨励金の補助件数（4月～翌年3月）								
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
20	22	24	26	28	30	30	件	32	107%	123%
	(前年に対する変化目標)									
	2	2	2	2	2					

※達成率の計算方法（一部、例外有り）：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率
 =（「対象年度の実績値」／「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」）× 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
A		

年度目標を達成しておりA判定。
 KPIに繋がる事業は周知されてきており、一定の実績値で推移している。
 ただし上位の数値目標が伸び悩んでおり、今後は移住希望者のほか、南砺市民に向けても周知し、Uターン等のきっかけとなるよう働きかけを行う。

エ 外部評価

各委員の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
	各委員の意見
○	隣接する市村も含めた人口動態の把握も重要（二、三代目世帯が南砺を支えている構図を描けるか）。また、Uターン等の事例を広報でとりあげる等、南砺の魅力を市民に知ってもらおう活動が重要。特に子ども達に知ってもらおうためにも。
○	一定の効果はあらわれているものと評価できる。
○	継続して実施。
△	
◎	魅力ある制度かどうか価値観によって異なると思いますが、無いよりあった方が良いです。
○	件数は増え、ある程度きっかけになっているんだと思う。ただ、仕事探しとも関連するのでセットでアピールしてはどうか。
○	転入した人たちは、そのまま住み続けているのか統計が欲しい。
◎	
△	
○	数値的には達成であり良い。だが奨励金があったから移住したのか、無くてよかったのか、を精査しないと無駄な施策になる。理想は、金で釣らなくても、移住したいと思わせる魅力を強化し、伝えていくこと。活動内容を細かく記録しノウハウ蓄積を。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
B	Uターンや半定住人口増の好事例を広報誌等でとりあげるなど、南砺市の魅力を、移住希望者だけでなく、市民に向けても周知することで、Uターン等のきっかけとなるよう働きかけを行う。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	地方創生推進課	関係課	南砺で暮らしません課
-----	---------	-----	------------

ア 体系区分

基本目標	基本目標Ⅳ 文化・芸術・景観・ひとが紡ぐ交流のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 移住定住施策の推進 ② 市民がつながり、交流する仕組みづくりの支援 ③ 交流観光の推進 ④ 貢献市民の拡大 ⑤ 「文化芸術創造都市」としての魅力をさらに高める ⑥ 高校、高専、大学、大学院、民間企業などとの連携の拡充

イ 指標と達成率

数値目標 4-1-2	年間転出者数	関連する施策区分	①②						
指標の説明、確認方法	年間転出者数(4月～翌年3月) ※達成度の算出にあたっては、H26からの減少分(3人)を、H26からの減少目標(25人)で割ることで算出している。								
現状値(H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度					
1,242	1234	1225	1217	1208	1200	人	1,239	7%	12%
	-8	-9	-8	-9	-8				

※達成率の計算方法(一部、例外有り)：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率
 =(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A：かなりの効果があった(8割以上) B：まずまずの効果があった(7割程度) C：少しは効果があった(改善・進展) D：まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E：効果が見込めない(悪化・停滞)
C	
年度目標へは届かないものの、平成28年度より改善し、H26年度の実績(基準値)よりも減少しているためC判定。 男性の30～34歳や女性の25～29歳などで大きく改善した。しかし女性の20～24歳では転出が増えており、職業上の理由から三大都市圏へ出る傾向がみられる。 (改善点) 市民意識調査では、南砺市に住み続ける事に対し若い世代で「わからない」という回答が多いことから、将来の南砺市に携わる意識を高める方策や、転出者の動向を調査することなどによって抑制につなげたい。	

エ 外部評価

各委員の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
	各委員の意見
○	隣接する市村も含めた人口動態の把握も重要(二、三代目世帯が南砺を支えている構図を描けるか)。また、Iターン等の事例を広報でとりあげる等、南砺の魅力を市民に知ってもらう活動が重要。特に子ども達に知ってもらうためにも。
△	地形、外的要因もあり一概に数値のみで評価することは難しい。
△	
△	
○	実績的に減少していますが、決して甘んじることのできない数字だと思えます。
△	一度県外に出ること前提で、出る前から手を打っておいてはどうか。10年以内にUターンしてきたら○○、とか。
△	若い人が転出する理由を調べて、改善する必要がある。
○	男性の30歳～や女性の25歳～で改善が見られたのは嬉しい。職業上の転出があったとしても、キャリアUPしてからや、子育ての為に戻ってこれるような情報発信や受け入れ態勢を。
△	
△	内部評価欄に記載されているとおり、難しい指標であると思えます。様々、複合的な課題があると思えますので、傘下の施策含め、地道に進めていただくしか無いと思えます。頑張ってください。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
D	転出者に対するアンケート調査を通して、転出の理由や動機を把握すると同時に、大学進学等で県外へ出ることを前提としたUターン施策についても検討を行う。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	地方創生推進課	関係課	南砺で暮らしません課
-----	---------	-----	------------

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅳ-② 市民がつながり、交流する仕組みづくりの支援
この施策の中で取り組む事業	80 南砺版求人バンクで地域活性化（地域の困りごと解決） 81 なんとポイント事業 17 三世同居奨励金及び推進住宅改修等助成事業 69 とやま呉西圏域連携事業の推進

イ 指標と達成率

KPI 20-1	住み続けたいと思う市民の割合									
指標の説明、確認方法	(市民意識調査) 今後も現在住んでいる地域に住み続けたいと思うと回答した数/有効回答数									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
70.8 (H28)	-	-	74	77	80	80	%	68	85%	92%
	(前年に対する変化目標)									
	-	-	3.2	3	3					

※達成率の計算方法（一部、例外有り）：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A: かなりの効果があった (8割以上) B: まずまずの効果があった (7割程度) C: 少しは効果があった (改善・進展) D: まだ効果が出ていない (現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E: 効果が見込めない (悪化・停滞)
D	

平成28年度より下がっておりD判定。
60歳以上の数値は高く、年度の目標値を超えているのは65~69歳のみとなっている。30代~50代ではどれも65%前後で推移し、18~20代では低くなっている。理由としては、どこかへ引っ越したいというよりは、「わからない」の回答が多い。
(改善点)
この指標は、総合的な指標であり、子育て施策やふるさと教育を今後とも推進することや、将来の姿をイメージできていない若者の意識を高めることで、南砺市に住みたいと考える若い世代を増やす取り組みが必要と考えている。

エ 外部評価

各委員の評価	◎: 効果があった ○: 少しは効果があった △: 現段階ではまだ判断できない ●: 効果が見込めない
	各委員の意見
○	隣接する市村も含めた人口動態の把握も重要 (二、三代目世帯が南砺を支えている構図を描けるか)。また、Iターン等の事例を広報でとりあげる等、南砺の魅力を市民に知ってもらう活動が重要。特に子ども達に知ってもらうためにも。
△	年代によって感じ方が違うことはいたし方ない部分ではあるが、施策等への評価として今後検討すべき。
△	教育、家庭、自治体が一体となって、それぞれの立場で意識の高まりや各種施策を推進する必要がある。
△	若年層の数字が低いのはやはり課題。
△	“住み続けたい”の意は“出ていく理由がない”という意味にも取れます。住みづらさが増せば小さなきっかけで住民は移動するのではないのでしょうか。
△	市内を出ないのは「住み続けたいから」より「住み続けるしかなかった」感じがまだある。市民全体の意識改革につながる取り組みが必要では。
△	よそではなく、南砺市に住みたい理由が若者の住みたいイメージとマッチしないのでは。
△	
△	
△	基本は数値目標4-1-2と同じですが、将来のことは「わからない」というのが本当の所かも。一度都会に出ても、結婚等のライフイベントの際に南砺が選択肢になるような、南砺の強み・魅力を若い世代に地道に伝える等、引き続き注力いただければ。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
D	市民アンケートやタウンミーティングなどを通じ、18~20代の若者世代に重点を置いて、「住み続けるしかなかった」を「住み続けたい」に変える施策の検討を進める。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	地方創生推進課	関係課	教育総務課
-----	---------	-----	-------

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅳ-② 市民がつながり、交流する仕組みづくりの支援
この施策の中で取り組む事業	20 ふるさと教育推進事業 21 学校間をつなぐ遠隔協働学習 49 マイスター認定事業

イ 指標と達成率

KPI 20-2	南砺市に「誇り」や「愛着」を感じている市民の割合									
指標の説明、確認方法	(市民意識調査) 南砺市への「誇り」や「愛着」を感じていると回答した数/有効回答数									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
69.3 (H28)	-	-	70	70.5	71	71	%	64.7	91%	92%
	(前年に対する変化目標)									
	-	-	0.7	0.5	0.5					

※達成率の計算方法(一部、例外有り)：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
D		

平成28年度より下がっておりD判定。
20代以下では高く、30代40代と60代前半ではやや低い。
若い年代で割合が高いことから、学校におけるふるさと教育に一定の効果があると考えられる。
一方で、市民意識調査の結果から、30代では「忙しい」という理由から学習活動やスポーツ・運動、文化的活動の頻度が減少する傾向がみられる。
(改善点)
この指標は、総合的な指標であることから、働き方改革等、様々な取り組みの成果により目標が達成するものと考えている。

エ 外部評価

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
○	隣接する市村も含めた人口動態の把握も重要(二、三代目世帯が南砺を支えている構図を描けるか)。また、Iターン等の事例を広報でとりあげる等、南砺の魅力を市民に知ってもらう活動が重要。特に子ども達に知ってもらうためにも。
○	実績値は下まわっているが、今後の課題として問題点の抽出という部分で評価できる。
△	若者の意識の高まりに期待。
●	地元がすばらしいと思うようなアピールも必要なのではないでしょうか。ポジティブイメージを持つような宣伝。
△	20歳以下で愛着を感じる人が多いのは、外をよく知らないためかもしれない。30代~60代で意識が低いのは危険。現状をよく知る人が誇りや愛着を持ってないのが悲しい。小中校の教育が大切。
△	地域差がありそう。そのあたりを調べて、地域ごとに対応を変えてはどうか。
△	協働のまちづくり意識が高まればいいけど、残念ながら理解が深まっていない。
△	若い年代が南砺市に愛着を持っているのは感じている。大人になって仕事の関係や嫁いできた方々が良さを知ったり感じたりする機会が少ないのではないかと思う。
△	
△	基本は数値目標4-1-2と同じですが、将来のことは「わからない」というのが本当の所かも。一度都会に出て、結婚等のライフイベントの際に南砺が選択肢になるような、南砺の強み・魅力を若い世代に地道に伝える等、引き続き注力いただければ。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
D	児童生徒のふるさと教育による郷土愛の醸成や社会教育活動を通じた地域のコミュニケーション強化を進める。また、広報なんと平成30年3月号の特集記事など、市内の若者の活動を取り上げ、広く知ってもらうことを通じ、若者の意識を高めたい。

主管課	地方創生推進課	関係課	
-----	---------	-----	--

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅳ-② 市民がつながり、交流する仕組みづくりの支援
この施策の中で取り組む事業	24 なんバスで暮らそう事業 25 南砺金沢線バス運行事業 26 JR城端線駅舎Wi-Fi整備事業

イ 指標と達成率

KPI 20-3	公共交通を使いやすいと感じている市民の割合									
指標の説明、確認方法	(市民意識調査) JR城端線、民営バス、市営バス、タクシーを使いやすいと感じると回答した数/回答数から無回答を除いた数									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
35.9 (H28)	-	-	38	39	40	40	%	30.9	77%	81%
(前年に対する変化目標)										
	-	-	2.1	1	1					

※達成率の計算方法(一部、例外有り): 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
D		

平成28年度より下がっておりD判定。
交通機関ごとに見るとタクシーの20.7%~民営バスの7.5%となる。ただし、「(この1年間に)良く利用する」とした人においては、使いやすいと感じる人が84.8%~40.6%となることから、一定の効果があると考えられる。
(改善点)
より使いやすい公共交通を目指すことに加え、市営バスのシルバーパスの周知など、普段利用していない人に公共交通を利用してもらうような取組が必要と考えている。

エ 外部評価

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
○	隣接する市村も含めた人口動態の把握も重要(二、三代目世帯が南砺を支えている構図を描けるか)。また、Iターン等の事例を広報でとりあげる等、南砺の魅力を市民に知ってもらう活動が重要。特に子ども達に知ってもらうためにも。
△	KPIとして妥当であり今後の推移を見守る必要有。一部の利用者の意見等になりかねない部分は要検討。
△	
●	
△	現状を更に分析・把握し、利便性を高めることが大切。内容の見直しが必要ではないでしょうか。
△	公共交通を普通使わない人も使おうと呼びかけるキャンペーンやイベントがあると良いのでは。
△	日常の通勤、通学に使えるよう時刻表を改善し、公務員が使うようにすれば、市民も使うと思う。
△	なくてはならない交通手段、本当に必要としている人達に使いやすいと感じられているのか
●	なんバスなど 本気で改良していない 旧町村のままである
△	難しい指標。公共交通は、単純な移動手段という意味では、自家用車に比べてほぼ100%不便に感じます。自家用車に比べて環境的に優れるなど、移動利便性以外のPRも含め、「公共交通機関の必要性」などの利用の基盤となるサブ指標も含められては。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
D	「南砺市総合公共交通計画」の見直しによって、より使いやすい公共交通を目指すことに加え、市営バスのシルバーパスの周知など、普段利用していない人に公共交通を利用してもらい、乗車率を高める取組を進める。

主管課	地方創生推進課	関係課	
-----	---------	-----	--

ア 体系区分

基本目標	基本目標Ⅳ 文化・芸術・景観・ひとが紡ぐ交流のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 移住定住施策の推進 ② 市民がつながり、交流する仕組みづくりの支援 ③ 交流観光の推進 ④ 貢献市民の拡大 ⑤ 「文化芸術創造都市」としての魅力をさらに高める ⑥ 高校、高専、大学、大学院、民間企業などとの連携の拡充

イ 指標と達成率

数値目標 4-2	貢献市民の人数	関連する施策区分	③④⑤							
指標の説明、確認方法	市外に住みながらも、南砺市を心に想い、集い、実践される方。第2住民登録をされた人数の合計									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)	
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度						H31年度
0	0	300	500	650	800	800	人	453	57%	91%
	-	300	200	150	150					

※達成率の計算方法(一部、例外有り)：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」 / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
A	

ほぼ目標数値を達成しておりA判定。
平成30年度以降も国の関係人口創出モデル事業を活用しながら、目標値の達成に努める。

エ 外部評価

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
○	定住人口ではなく、関係人口のパイプと地域の広がりを重点施策として動いていくべき。その意味で各種事業の連携をもっと図る必要がある。
○	地道な取り組みであり、効果は十分期待できる。
◎	積極的にPRを。
○	
◎	事業の効果が出ていると思います。
○	一定数登録はされているのか、と思った。
◎	マイペースで簡単に参加できるのがいいのでは。
○	
●	本気で取り組んでいるとは思えない
○	人数(数値目標)としては、達成されており良いと思います。着実に増えつつある貢献市民の方々に、今後どのように、貢献市民としての意識を継続して持っていただくか、南砺市へ「貢献」いただくか、など、質的な取り組みへのシフトを期待します。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
A	継続して目標値の達成に努めるほか、各種事業との連携を進めたい。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	交流観光まちづくり課	関係課	エコビレッジ推進課、商工課、地方創生推進課
-----	------------	-----	-----------------------

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅳ-③ 交流観光の推進		
この施策の中で取り組む事業	82	なんとエコツーリズム事業	92 TOGA国際芸術村を核としたクリエイティブビレッジ構想
	83	滞在型彫刻体験等支援事業	
	87	コンベンション支援事業	
	53	地元の空き家を活用した短期滞在型施設経営支援「田舎に泊まろう」	
	76	観光客誘致推進に向けた広域連携事業	

イ 指標と達成率

KPI 21-1	観光客入り込み数									
指標の説明、確認方法	市の調査として観光協会支部単位ごとに調査している観光客入り込み数の合計									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
325.6	-	-	351	360	370	370	万人	345.5	93%	98%
	(前年に対する変化目標)									
	-	-	25.4	9	10					

※達成率の計算方法(一部、例外有り)：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率
 =(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
C		

前年度より減少しておりC判定。
 日本人観光客の減少は、人口減少と、近年の旅行形態の変化が大きな要因である。
 ただしインバウンドは年々増加しており、特に香港、アメリカ、フランスからの宿泊者数は大きく増えている。
 (改善点)
 KPIに繋がる事業は概ね順調に進んでおり、今後は首都圏の東京だけでなく、新幹線のハブ駅がある埼玉県大宮を中心とした事業展開により、南砺市に対する認知度の向上と、北陸新幹線を利用した誘客に努めていく。
 加えてインバウンドでは、世界文化遺産「五箇山合掌造り集落」、日本遺産「井波」、ユネスコ無形文化遺産登録の「城端」の3エリアの周遊コースの造成等の取組みや、SNS(フェイスブック等)での英語による南砺市の魅力を発信することで、更なる誘客、宿泊客を増やし、市内での消費UPに努める。

エ 外部評価

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
○	定住人口ではなく、関係人口のパイプと地域の広がり重点施策として動いていくべき。その意味で各種事業の連携をもっと図る必要がある。
○	数値的には減少傾向にあるが、インバウンド等時流にあわせ効果は期待できると考えられる。
○	SNSやマスコミ(できれば)を活用し、積極的な情報発信を。
○	インバウンド増加を評価。海外客を呼べれば日本の観光客も増えると思います。
○	観光PRは国内に向けて発信しているが、観光客が減少している。逆に国外に向けては、それほど発信していないのに客数が増えている。これはPRに力がないのか、観光物件そのものに力がないのか、検証していただきたいです。
△	市民がそれぞれガイドできるくらい知識を持つための取り組みをしてはどうか。市民が観光客を呼ぶ気がする。
○	口コミで観光客が増えるために、街の魅力に磨きをかける必要がある。
○	様々な事業が展開され、期待できる。南砺の良さや歴史的財産を広く知り、感じてもらえる取り組みはますます大事。
△	
△	未達&昨年度比減少ではあるが、現状分析、対策が丁寧に検討されている。交流人口増加からの人口増加という絵空事ではなく、宿泊客増による市内消費UP、と出口が明記されているのは良い。市内宿泊客数など踏み込んだ現状把握でも良いのでは。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
B	城端駅の交通・情報拠点化整備に合わせ、観光協会と連携し、推進中の広域連携や市内観光拠点間の相互送客体制、SNSの活用などの情報発信を強化し、インバウンドの誘客を推進する。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	交流観光まちづくり課	関係課	
-----	------------	-----	--

ア 体系区分

施策区分	
この施策の中で取り組む事業	84 観光客受入環境整備事業 89 おもてなしFree Wi-Fi事業 97 なんチャリ事業

イ 指標と達成率

K P I 21-2		観光客の満足度								
指標の説明、確認方法		市観光客動態調査により、各指標を設定し、南砺市に対する満足度を算出								
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
86	-	-	87	88	89	89	%	88.2	99%	101%
	(前年に対する変化目標)									
	-	-	1	1	1					

※達成率の計算方法(一部、例外有り) : 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」 / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A : かなりの効果があった(8割以上) B : まずまずの効果があった(7割程度) C : 少しは効果があった(改善・進展) D : まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E : 効果が見込めない(悪化・停滞)
B		

平成28年度より減少したものの年度目標は達成しておりB判定。
平成24年度に策定した「交流観光まちづくりプラン」を平成29年度に見直し、目標を定めている。
宿泊事業者等における接客・宿泊・食に対する満足度は高いが、公共交通機関・情報発信・お土産に対する満足度が低い。
公共交通機関については新規事業として【戦略97】なんチャリ事業を開始することで周遊性を補完したい。また、お土産についても【戦略45】南砺ブランド商品開発支援との連携により、満足度の向上につなげたい。

エ 外部評価

各委員の評価	◎ : 効果があった ○ : 少しは効果があった △ : 現段階ではまだ判断できない ● : 効果が見込めない
	各委員の意見
○	定住人口ではなく、関係人口のパイプと地域の広がりを重点施策として動いていくべき。その意味で各種事業の連携をもっと図る必要がある。
○	目標は達成されており効果は十分期待できる。なんとブランド商品開発事業等事業間連携を進めるべき。
○	満足度の低い項目について、他の事業と併せて取り組みを強化。
○	
○	なんチャリ事業の利用者数の推移に注目したいです。
○	満足度が低い所の補完も確かに考えなければならないが、満足度が高い項目を更に上げる方が突き抜けるのでよいのでは。
○	公共交通機関を充実、周知できれば、市民の足にもなり、観光客の利便性も高まるでしょう。
○	観光客がリピーターや貢献市民、移住へとつながると良い
△	本気度を感じた事がない
○	順調であり、現状分析、対策検討共に、丁寧に進められていると思います。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
B	現在推進中の城端駅の交通・情報拠点化や【戦略97】なんチャリ事業による2次交通、【戦略45】南砺ブランド商品開発支援による土産品の充実などにより、利便性や満足度の向上につなげる。また、それらの観光情報を応援市民等へ発信し拡散する。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	地方創生推進課	関係課	税務課
-----	---------	-----	-----

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅳ-④ 貢献市民の拡大
この施策の中で 取り組む事業	90 貢献市民登録制度
	91 ふるさと寄附金の推進及びふるさと製品の拡大
	85 なんと！幸せのおすそわけキャンペーン

イ 指標と達成率

KPI 22		ふるさと寄附をした人数								
指標の説明、 確認方法		ふるさと寄附をした人数								
現状値 (H26 年度)	年度時点の目標数値					5年間の 目標値	単位	H29 年度 実績値	5年間の目標値 に対する 達成率(%)	年度時点の目標 数値に対する達 成率(%)
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度					
65	-	-	500	500	650	650	人	462	71%	92%
-	-	435	0	150						

※達成率の計算方法(一部、例外有り)：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率
 =(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

ウ 内部評価

年度時点の達成率 に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
B		

平成28年度より減少したものの、年度目標の9割を達成しておりB判定。
 平成29年度当初の総務省通達(返礼品は寄附金の3割とする)もあり、寄附件数の減少は全国的な傾向である。
 貢献市民は増えており、応援活動として「ふるさと寄附」に取り組んで頂ける方をさらに増やしたい。

エ 外部評価

各委員 の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
○	定住人口ではなく、関係人口のパイプと地域の広がりを重点施策として動いていくべき。 その意味で各種事業の連携をもっと図る必要がある。
○	一定の効果は期待できる。他事業との連携・活用も視野に進めるべき。
○	
○	
○	返礼品に頼らない実績を目指すことが大切だと思いますが、返礼品の見直しが必要なきもあると思います。
△	減少傾向の中で、返礼品とは別の取り組みによって、寄附は増えそう。お礼の心の問題。
○	
○	
△	
○	全国的な傾向と比べての増減比率など、サブ指標があると、国の制度や景気動向などの影響を抑えて、毎年の適切な評価ができるかと思います。

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
B	SNSを活用して、応援活動として「ふるさと寄附」に取り組んで頂ける方の増加に取り組む。また、SNSを使用しない人達へのPR方法を検討して実施する。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	地方創生推進課	関係課	
-----	---------	-----	--

ア 体系区分

基本目標	基本目標Ⅳ 文化・芸術・景観・ひとが紡ぐ交流のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 移住定住施策の推進 ② 市民がつながり、交流する仕組みづくりの支援 ③ 交流観光の推進 ④ 貢献市民の拡大 ⑤ 「文化芸術創造都市」としての魅力をさらに高める ⑥ 高校、高専、大学、大学院、民間企業などとの連携の拡充

イ 指標と達成率

数値目標 4-3	提携大学数	関連する施策区分	⑥							
指標の説明、確認方法	南砺市と官学連携事業を共同で実施する提携を結んだ大学数の合計									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)	
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度						H31年度
1	2	3	4	5	6	6	大学	6	100%	150%
	(前年に対する変化目標)									
	1	1	1	1	1					

※達成率の計算方法(一部、例外有り)：「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率
 =(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A：かなりの効果があった(8割以上) B：まずまずの効果があった(7割程度) C：少しは効果があった(改善・進展) D：まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E：効果が見込めない(悪化・停滞)
A	

最終目標を達成しておりA判定。
 平成29年度中に富山県立大学と包括連携協定を締結した。内訳は県内3大学、金沢市内2大学、北海道1大学。
 目標に繋がるKPIも好調であり、今後は、平成28年度実績の評価でも指摘のあった市民への周知に取り組むなど、既に実施した提携をより深化させていきたい。

エ 外部評価

各委員の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
	各委員の意見
○	大学や大学院のサテライト校開設や南砺星槎塾の定例開始支援も検討すべき。
○	現状で推移のこと。
○	より効果のあるものとして進めていただきたい。
◎	
◎	市民と大学生が交流する場を設けるなど、実際に市内に大学生の姿を見かければ評価が実感できます。経済効果の実感が必要だと思います。
◎	提携数多い。市民への周知がかなり低いのでは。
◎	名目だけに終わらないよう内容の充実を期待します。
◎	今後に期待。
○	熱心だと思う
◎	

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
A	平成30年度は、富山国際大学・富山短期大学において、南砺サテライトを活用した出張学園祭を開催されるなど、学生と市民との交流の場が生まれてきており、さらに取組みを進めたい。

平成 29 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	地方創生推進課	関係課	南砺で暮らしません課
-----	---------	-----	------------

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅳ-⑥ 高校, 高専, 大学, 大学院, 民間企業などとの連携の拡充
この施策の中で取り組む事業	93 官学、官民連携事業 94 金沢大学セミナーハウス整備事業

イ 指標と達成率

K P I 24		官学・官民連携の手法を活用した事業実施数								
指標の説明、確認方法		南砺市が官学連携、官民連携の手法を活用して実施した事業数の合計 ※サテライトやセミナーハウスなど1年間を通して活動を行うような事業については1つの事業としてカウント								
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H29年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
2	3	4	6	8	10	10	件	11	110%	183%
	1	1	2	2	2					

※達成率の計算方法(一部、例外有り) : 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」 / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A: かなりの効果があった(8割以上) B: まずまずの効果があった(7割程度) C: 少しは効果があった(改善・進展) D: まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E: 効果が見込めない(悪化・停滞)
A	

年度目標を達成しておりA判定。
平成29年度は特に富山県立大学の地域協働授業による取り組みが活発で、南蟹谷地域や井波商店街の取り組みは新聞等でも取り上げていただいた。
平成28年度実績の評価でも市民に知られていないとの指摘を受けており、これまでの事例紹介などを行いながら、更なる連携事業の推進を図りたい。

エ 外部評価

各委員の評価	◎: 効果があった ○: 少しは効果があった △: 現段階ではまだ判断できない ●: 効果が見込めない
	各委員の意見
○	大学や大学院のサテライト校開設や南砺星槎塾の定例開始支援も検討すべき。
○	目標は達成されており十分評価できると考える。
○	より効果のあるものとして進めていただきたい。
◎	
○	何が目標達成の指標かがわかりにくいです。
○	官学・官民連携による市民へのメリット?的なものがよくわからない。
◎	市民が直接参加できるセミナーや講座など、今後に期待します。
○	前年より大学生の動きは見えるようになったが、どんな事業なのかはまだ知られていないのではないかと?
△	まだ 見ていない
◎	

オ 最終評価及び今後の取り組みと改善点

最終評価	今後の取り組みと改善点
A	更なる官学・官民連携事業の推進に取り組むこととあわせて、市民へのメリットを広く周知して市民参画を進める。